

東方増神録

鮭好きの子猫

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

ある所に妖怪や人間、神々が暮らしている幻想郷があった。

ここは、そんな幻想郷の中にある守矢神社。

洩矢諏訪子の血を引いた一人の神の物語が始まる！

目次

第1章

第一話	初めての幻想郷	1
第二話	幻想郷巡り	8
第三話	紅霧異変①	13
第四話	紅霧異変② 早苗目線	19
第五話	普段の日常	24
オリジナルキャラクター紹介		30
第六話	春雪異変	35
第七話	紅霧異変&春雪異変	宴
会		41
第八話	美奈子日記	46

第九話	ばれた	49
第十話	天魔	53
第十一話	逃走中①	57
第十二話	逃走中② ミッション	65
第十三話	逃走中③ ミッション	71
第十四話	確保	76
第十五話	逃走中終	82
第十六話	一時間目	87
大ニュース!!?		91
第十七話	美奈子の誕生日作戦!!	95
?		95

第三十六話 ハロウィン — 182

第四十三話 緋想天異変①

第三十七話 トリックオアトリ — 186

218 第四十四話 緋想天異変②

ト — 186

第三十八話 クリスマスイブ

222 第四十五話 終わりの花見

190

第三十九話 クリスマス — 194

226

第四十話 クリスマス 早苗

第2章 番外編

目線 — 199

番外編第一話 — 230

第四十一話 クリスマス

諏訪子目線 — 203

第四十二話 クリスマス 神奈子

目線 — 208

第四十二話 初詣 — 213

第1章

第一話

初めての幻想郷

美奈子「あー。こたつの中あつたかいなー」

私は洩矢美奈子^{みなこ}、今あつたかいこたつの中に入っているんです。

早苗「神奈子様いないよね…… やった！ 神奈子様じゃない!!? …… つて誰ですか!!?」

美奈子「えっ!!? お母さんに聞いてないんですか？」

早苗「お母さんつて誰ですか!!?」

お母さん、みんなに内緒にしてたんですか。

美奈子「はあ。私のお母さんは諏訪子です。で、私は洩矢 美奈子です」

早苗「最初は自己紹介しなきゃですか……では気を取り直して！ はじめまして！

私は東風谷早苗！」

ふむふむ！ 東風谷早苗さんかー。 お母さんが言つてた一人ですな。

他には誰がいるんでしょう。 か……か……神奈子さんでしたっけ？ でもいつかは

会えるだろうし、考えなくても良いですかね。

美奈子「早苗さん、外に出ましようよ」

早苗「良いですよ（異変終わってすぐですけどねえ。初めての人には親切しませんが！）」

く 外 く

諏訪子「あつ！ 美奈子出てきたんだ。神奈子と早苗、この子洩矢 美奈子っていうんだ」

神奈子「むっ！ 諏訪子…… いつの間に子供つくった！ にくいぞ。このー！」グ
リグリ

諏訪子「痛いよ〜！ 神奈子お」

あの人が神奈子さんですね。意外とすぐに見つかりましたよ〜！ それと、なにかあの二人が言ってますけどね。何を話しているんでしょう？ そういえば他の幻想郷に住んでいる人達に会ってませんし。会いたいですね〜……… そ……… それよりも外 …… 寒っ！

美奈子「あつ！ そういえば、早苗さん、ここ何神社ですか？」

早苗「えっ……… 守矢神社です（聞いてなかったんだ）」

へえー！ 私は守矢神社に住んでたんですね。

翌日

「こたつの中あつたかいなー！」

「そういえば 朝ご飯美味しかったなー。誰が作ったんでしょうね？ 後できこうかな」

早苗「そういえば、美奈子さんの能力って何ですか？ 私の能力は『奇跡を起こす程度の能力』です」

美奈子「美奈子で良いですよ。私の能力は『何でも出す程度の能力』です。それとみんなで幻想郷をまわりましょうよ！」

神奈子「美奈子ナイスアイデア！」

5分後

諏訪子「美奈子この山は妖怪の山と言うんだよ」

美奈子「ここに家があります！」コンコン

あれ？ 誰もいない

文「あれ？ 私の家に用ですかー？ 私は射命丸 文というものですー！ 特ダネでもくれるんですかー？」

ここの家の天狗？ メモ帳持っているんですけど。

早苗「こんにちはー。他の人がいるところに連れてってください」

文「良いですよー」ニヤリ

ひつ！ 何か分かりませんが、ニヤリってやりましたよー！

美奈子「ってえっ!？」

諏訪子「……」ズリズリ

痛いよー！ お母さん！

神奈子「じゃあ次は、ここの家に行こうか」コンコン

ポカーン

えっ？ 今の爆発は何ですか!?!?

にとり「うー！ 失敗しちゃった」

美奈子「あー誰ですか？」

?? 「にとり! 大丈夫!?!」

にとり 「うん、大丈夫だよ。お姉ちゃん」

?? 「ほっ」

文 「あの〜! あなた達ここに連れてきたお礼として特ダネください!」

「「「ないです!」」」

文 「ならば弾幕ごっこで勝負!」

え? 弾幕ごっこって何ですか。 えーと…………… あー! 思い出した!

スperlカードだったね。考えよう…………… よし! 決めました!

美奈子 「なら、私とやってみてください!」

文 「じゃあスperl3枚、被弾3で」

美奈子 「帽符「ぼうしブーメラン」ヒュ——

文 「突符「天狗のマクロバースト」!」

3分後

文 「速い! でも幻想郷一の速さをほこる私には、はまらな」カポツ

美奈子 「はまりましたね」

文 「油断してま、し、た……………」バタン

こんなにはやくできるって思いませんでした。

早苗「出来ましたね!!？」

神奈子「ねえ、文どうする？」

美奈子「もうここに置いて良いんじゃないですかー？」

諏訪子「それで良いじゃん」

文「はっ！ 誰もいなくなってる！ うええーん！

特ダネを貰えると思ったのに

！ 最近特ダネが無いのにー！」ズーン

静葉「私は秋静葉よ」

穰子「私は秋穰子だよ」

「ブドウ5個どうぞ」

神奈子「あ、ありがとう。後で食べるね」

美奈子「こんにちはく」

椀「こんにちは。私は、この見回りをしている犬走

椀です。外に行つて、どう

ぞ」

美奈子「最初は何処に行くんですか？」

早苗「じゃあ最初は、博麗神社に行きましよう」
他の人に会えるのがとても私は楽しみです！

第二話 幻想郷巡り

「博麗神社」

美奈子「こんにちはー」

ここが博麗神社かー。あれ？ 誰かいる、まあ当然ですが。

霊夢「私は博麗 霊夢。素敵なお賽銭箱はそこよ…… って前の！」

早苗「今からは仲良くしましょうよ」

この前 窓を見ていたら来た人だ。

霊夢「それにあんた誰よ」

美奈子「私は洩矢 美奈子です。よろしくお願いします」

霊夢「……（また神が増えた？ 嫌だわ。もうそろそろこつちにも人を頂戴！）」

何か分からないけど怒ってる！

美奈子「お賽銭、いれますから」

霊夢「それなら許してあげるわ！」

美奈子「……」パンパン

ふう 危なかったー。でもこれで許してくれるんだ。

早苗「さようなら。また来ますね」

霊夢「ん」（こなくていい!）

諏訪子「うわっ!」コケッ

え? お母さんがこけた? って何もないところで?

この辺に誰がいるのかな。ん? あそこに気配がする!

美奈子「帽符「ぼうしブーメラン」」

ドーン

あ、本当にいたんだ。

「サニー!!」

スター「私はスターサファイア。よくもサニーを! 弾幕ごっこで勝負!」

ルナ「あ・ちよま・私が言おうとした……えー……」

美奈子「良いですよ。スペルカード3枚、被弾3です! 猫符「猫の集団」」

スター「え? ちよつと待つつ」

ドドドド

「「ぎゃあー!!?」」

美奈子「次の所に行きましようよ」

早苗「……人里に行きましようか」

人里

妹紅「こんにちは。私は妹紅。お前は？」

美奈子「私は洩矢 美奈子です」

妹紅「ふうん。(子供っぽいし) 寺子屋に来てみたらどうだ？」

美奈子「じゃあ、時間がある時に寺子屋に行きます！」

諏訪子「暗くなってきたから、後少しだけだね」

早苗「じゃあ、湖を見てから帰りますか」

湖「……どこにあるんでしょう。ん？」

チルノ「だれだ！ あたいはチルノだ。チルノ様と呼べー!!」フフーン

大妖精「チルノちゃんいつつも、こんなかんじなんですよ。あつ、私は大妖精です」ペ

コペコ

ルー「ルーミアなのだー」ワハー

リグル「私、リグル・ナイトバグ。よろしく」

ミス「私はミスティア・ローレライだよ」

美奈子「洩矢 美奈子です。皆さんこれからよろしくお願いします」ペコリ

く湖く

美奈子「綺麗ですね。釣りができそうです」

早苗「綺麗ですね」キラーン

椀「お帰りなさい。どうぞ」

あつ また誰かいる。

雛「私は鍵山 雛」

美奈子「私は洩矢 美奈子です」テクテク…… テヲサシダシ―

雛「あつ、私に近寄らない方が良いですよ!!？」

え？ どうしたんですし。

雛「厄をためているから、近寄ったら厄がうつります」

早苗「また来ますね」

ゆとり「誰？ 私は河城 ゆとり、にとりの姉だよ」コンニチハ

早苗「私達は、山にある守矢神社にいるんです」

ゆとり「ふーん。そうなんだ。またねー」

美奈子「ふうけつこう幻想郷って広いんですね。もう夜ですからね、夜ご飯私が作ります」

「「「いったきまーす。」」」

早苗「美奈子のご飯めっちゃ美味しいです！」キラキラ

美奈子「ありがとうございます」

ー少女夕食中ー

「「「ご馳走さまでした」」」

諏訪子「ふう、美奈子はこんな美味しいご飯作れるんだ」

美奈子「ありがとうございます」

諏訪子「寝ようか。おやすみ」

美奈子「明日が楽しみですね」

第三話

紅霧異変①

置き手紙を書く……。そして机の上に置き手紙を置く。湖に釣りに行きますか！

湖

美奈子「大きい屋敷がある！ まあいいですか。えーつとやり方は、色々あつて最初は……釣り竿を湖に投げる。よいしょよいしょ」

ボカーン

何ですか!?？ ここではこんなに爆発がおこるんですか！

せつかくの釣り竿の餌がー。

美奈子「え？」

何があつたんですか。紅霧があるんですけど。寒くなつてきたです。

紅魔館

?? 「お姉さま、やつとここに來れたね」

?? 「そうね。色々準備したわね」

?? 「お嬢様？」

?? 「ああそうね。そういうえばそうだったわ。じゃあ！準備を始めるとしようか!!？」

く守矢神社く

美奈子 「早苗さん！ 異変がおきました！」

早苗 「やつぱり」

美奈子 「いややつぱりじゃないですけどね？だって、外が明らかに紅いですもんね？
まあ……」

「解決しに行きましょう！」

く紅魔館く

早苗 「あつ 霊夢さん」

前の怖い人だ！ うわあ近づかない方が良いかな？

霊夢 「異変解決は渡さないわよ」

美鈴 「私は紅 美鈴です。何し「通らせてもらうわ！」え？」

霊夢 「霊符「夢想封印」！」

美鈴 「うわああああ！咲夜さーん！すいませんでしたああああ！」

ドーン

美奈子 「やつと通れますね」 ギイー

早苗 「誰かいます！」

咲夜「私は十六夜　咲夜。紅魔館のメイド長よ。誰からくるのかしら?」

早苗「咲夜さんは私が相手しますから。先行つててください」

美奈子「分かりました。頑張ってください」

→大図書館入り口

こあ「私はパチュリー・ノーレッジ様の使い魔の小悪魔です」

美奈子「私と勝負です!　猫符「お魚ウインナー」

こあ「えつ、私スペルカード無いんです!」

→大図書館

パチエ「こあ、やっぱり負けたの、ゲホッ」

どうしたのかな?

魔理沙「待て。パチュリーを倒すのはこの魔理沙様だぜ!」

「え?」

パチエ「ちよ: : あたつちやう。やめ、ゲホッゲホッ!」ドカーン

パチエ「むきゅー」

魔理沙「ふふーん。どうだ霊夢!」

霊夢「.....」

美奈子「先に行きましょうよ」

霊夢「ふん」

魔理沙「??」

フラン「フランドール・スカーレットだよ。フランって呼んでね。でもここから先は通さないぞ！お姉様に言っただんだ！」

美奈子「帽子かぶってどうぞ」

フラン「何これ？」カポッ

魔理沙「!？」

美奈子「さて、行きましようか」

霊夢「……」

美奈子「あつ誰かの部屋があります」

レミリアの部屋

レミイ「みんな倒したなんて……美奈子その帽子かぶってるやつ！」

ええ!??この吸血鬼酷い!

美奈子「私はその帽子かぶってるやつじゃありません！神符「守矢神社の神」

レミイ「私に勝つ事は出来ないわ。天罰「スターオブダビデ」

ボカーン

レミイ「むっ…… 紅符「スカーレットシュート」

美奈子「巫女符「妖怪退治」

レミイ「ひっ！やばいわ！神槍「スピア・ザ・グングニル」(退治されてしまう)

レミイ「あつ。スペルの時間がっ。 貴方私に勝つとは…… なかなかの強さね、霊

夢より強いわ」

霊夢「……」(私がやっても勝つてたと思うけど?)

早苗「大丈夫ですか！」パカッ

美奈子「大丈夫ですよー」

く守矢神社く

諏訪子「お帰りく」

神奈子「ご飯用意しといたよー」

美奈子「ありがとうございます」

「「いただきます」」

ー少女夕食中ー

「「「ごちそうさま」」」

早苗「疲れましたね」

美奈子「ですよね、咲夜戦どうでした？」

早苗「大変でしたよ。スペルカード全部使いましたから」
そんなに大変だったんですか。でも初めての異変解決楽しかったな

第四話

紅霧異変②

早苗目線

（紅魔館）

早苗「いきますよ〜！奇跡「神の風」」

咲夜「私の世界「咲夜の世界」私はお嬢様のために勝ちま……」

「まて〜!!?」

早苗「誰ですか!!?」

魔理沙「魔理沙だぜ！ 霊夢、異変が起こったら私に言うのを忘れるんじゃないんだぜ！ いっちゃうぜ！ 恋符「マスタースパーク」」

早苗「私にもあたつちやいますよ〜！私仲間なのに！」
あわわわわわわ!!?

魔理沙「ん？ 何でお前がここにいるん」グサ

咲夜「危なかったわ。もうすぐで当たるかどうか」

早苗「……」

いつの間に！ ナイフがいきなり現れて魔理沙さんにささつてました!!?

魔理沙「ふにゃ〜?」

こうなったら……!!?

早苗「何がでるかな? 神籤「乱れおみくじ連続引き」

咲夜「……………」ドーン

早苗「ふう やつ「危なかったわね」 えっ!?!」

咲夜「幻符「殺人ドール」

早苗「ひっ!」

魔理沙「……………」はっ 怖いから逃げるのぜ」

早苗「秘術「グレイソーマタージ」

咲夜「お嬢様。負けてしまいましたわ。もうスペルカードもないので」ドーン

早苗「ふう…… 今度こそ終わりましたから、美奈子達がいる所に行きますか」

く大図書館」

早苗「あれ? 本棚がぐらぐらしてますね」ドーン

うわあー! 本棚がこつちに倒れてきたー!!?!?!?

早苗「ふう奇跡的に助かりました……」

早苗「さてと美奈子達のところに向かいますか」

早苗「ん?」

二人も倒れていますね。霊夢さん達が倒したのかな? それに一人だけ羽が生えて

いるんですけど！　こんな人もいるんですね。

レミアアの部屋前

早苗「ここには羽が生えている子がまた倒れているんですけど？」

何が起きたんでしょう……？

レミアアの部屋（ドア前）

ボカーン

早苗「ひやつ！爆発がおきましたよ！！？」

開けるの怖いなあ……。もし爆発が起きたら……。

早苗「……」ツン

早苗「……」

見ようかなあ……？いやどうしよう。

早苗「……」

よし開けよう。でもやつぱりやめようかな。怖いですう……。神奈子様諏訪子

様あ……。

早苗「……」

うーん。うーん……よし開けよう！

早苗「大丈夫ですか！」パカッ

美奈子「大丈夫ですよー」

ほつ。でもそうですよね、神と妖獣のハーフですもんね。めっちゃ強そうだからそう簡単に負ける訳無いですよ。それに比べたらみんなよりは私弱いですよ……。

〜守矢神社〜

お腹空いてきましたよ！ 大変でしたからね、これぐらいそうですよね。夜ご飯何でしょう？

諏訪子「お帰り〜」

神奈子「ご飯用意しといたよー」

美奈子「ありがとうございます」

「いただきます」

ー少女夕食中ー

「いただきます」

夕食は神奈子様か諏訪子様どっちかが作ったご飯ですよ。結構美味しかったなあ。いつつも私が作ってましたからね。あれ？ 以外と私大変だった？

早苗「疲れましたね」

美奈子「そうですよね、咲夜さん戦どうでした？」

早苗「大変でしたよ。スペルカード全部使いましたから〜」

全部大吉だったので良かった。じやなかったら負けてましたよ。勝てなかった時が、ありましたから心配でした！

第五話

普段の日常

早苗「暇ですね〜……………そうだ！ 早口言葉しましうよ。神奈子さ「早苗からね」ちえー私からですかあ……………他の人がやっている時考えたかったです……………」

早苗「うーん。隣の客はよくきやき食う客だ！」

美奈子「きやきになつてますよ」

早苗「あつ……………次諏訪子様ですよ」

諏訪子「カエルぴよこぴよこみびよこぴよこあわせてぴよこむびよこぴよこめつちやびよこぴよこありますね〜！カエルが1匹、2匹!!？」

神奈子「うーん。バスガス爆発！」ドーン

「「「?!」」」

神奈子「……………次美奈子だよ」

美奈子「×☆+÷∥, ×」

早苗「え？ なんて言いました？」

美奈子「×☆+め」

早苗「一番遅く！」

美奈子「え？何ですか？さっきのは『生麦生米生卵』私速かったかなあ？次からはゆっくりにしとこうかな。」

神奈子「も……もう一周ね……？」

早苗「とうきようらつきよ……ああ……間違えちゃった」

諏訪子「生なまず生なまこ生なめこ」

神奈子「きよう・ぎゆうびようぶーむ。ハアハア」

美奈子「青巻紙、赤巻紙、黄巻紙」

早苗「え……？国語述語述語主語？だっけ？」

諏訪子「肩叩き機」

神奈子「生あたたかい、肩叩き機！どうだ！もう無いだろ！！？」

美奈子「七生麦 七生米 七生卵」

早苗「え、え、え、もうありませんー！」

諏訪子「じゃ早苗なしで私から。しようひししゅつひ」

神奈子「ふっふっふっ……この時のために残しておいた奴だ！！？ブスバスガイド、バ

スガス爆発！」ボカーン

早苗「え？ また爆発がおきまーうるさい！ 次美奈子ね！」シクシク！ひどいです

よー！神奈子様ー」

美奈子「今日の生だら、ならままながつお、生米生麦生卵」

神奈子「そ、外行こうか……」(ここにいたら何か大変な事になりそうだ……)
く人里く

美奈子「あそこ人が集まっていますよ？」

ルナサ「はじめての人ははじめまして。私はルナサ・プリズムリバー」

メル「私はメルラン・プリズムリバー」

リリカ「私はリリカ・プリズムリバー」

キャリア「私はキャリア・プリズムリバー」

「「音楽会をはじめます」」

早苗「へく音楽会だったんですねく♪」

五分後

ルナサ「ありがとうございます」

「「ありがとうございます」」

早苗「あーおわっちゃいましたね」

美奈子「すごかったですね」

もう一回聞きたいぐらいですよ。ついでにサインが欲しくなってきたです。もう私の中では、有名人ですよ。次いつやるんでしょう？ 楽しみすぎて、夜しか眠れませんかよ。帽子の上に乗っている物？ のがみんな違いました。みんな凄さが違って良かったです。みんながそのグループになっているから、良いんだと思います。音楽って良いですね。元々好きだったけど、もつと好きになっちゃいました。今度バイオリンとか、ピアノとか練習してみようかなあ。家にあるか分かんないですけど。無かったら出せば良いか。私の能力って便利ですね。確かに、『何でも出せる程度の能力』って聞いたら、すぐに、便利そーってなりそうですね〜!!? ん?

美奈子「あ、妹紅さんが歩いていきますね」

早苗「おーい。妹紅さくん！」

妹紅「あ、美奈子達じゃん。どうしたんだ？」

美奈子「あー……。たまたま見つけたので」

妹紅「ま、寺子屋こいよ」

美奈子「やる事無い時行きます」

妹紅「やる事ない時っていつだよ！」

早苗「さようなら〜」

妹紅「じゃあな」

く妖怪の山く

椀「お帰ちなさい」

神奈子「ただいま」

く守矢神社く

諏訪子「あ！そういうえばこういう事もあるかもしれないから、弁当作っていたんだつた！」パン!!

美奈子「こういうことって予想？」

ー少女昼食中ー

美奈子「美味しかった」

よく思うけど、弁当で食べると、いつもより美味しく思えますよね。そういうえば、弁当作つたなら、持つてけば良かった気がします……。その事は言わないでおきましようか。言つたらあつ!!?ほんとじゃん!!?的な事になりそうですよね。

「おまけ」早口言葉の爆発の意味

にとり「よし。できた！」

ボカーン

ゆとり「壊れたよ!!? あれ?ネジが一本落ちているけど」

数分後

ゆとり 「まず黄色と緑つないで」

にとり 「はい！」カチャ

ゆとり 「青と赤つないじゃダメね？」

にとり 「OK」カチャ

ゆとり 「………」

にとり 「あ……」

ボカーン

ゆとり 「もー!!? 青と赤はつないじゃダメだつて!!?」

にとり 「ごめん」エヘヘ

終わり

オリジナルキャラクター紹介

洩矢 美奈子

血液型…………… AB型

誕生日…………… 9月6日

年齢…………… 10歳（自称。言いたくないらしい）

種族…………… 神と妖獣（化け猫）（人間になれる）

能力…………… 何でも出せる程度の能力

お母さんが洩矢諏訪子、お父さんはいない。

洩矢 みなこの絵です。（予定）

スペルカード

帽符「ぼうしブーメラン」

8分間。最初は歩いている速さと同じだけど、残り7分半になったら新幹線と同じ速さ。何かに当たったたらくるっと回って前に進む。

「神々の襲撃」

神達の一 weakest スペルカードが一斉にくる。

神符「守矢神社の神」

諏訪子と神奈子と美奈子のスペルカードが来る。

巫女符「妖怪退治」

巫女が妖怪を退治するスペルカード。

巨大「猫ガエル」

猫耳と猫尻尾がある巨大なカエルがのみこもうとしてくる。

猫符「お魚ウインナー」

お魚ウインナーなのは、最初に食べた食べ物がお魚ウインナーだったから。好きって
いうこともある。

5分間お魚ウインナーの形の弾幕が追ってくる。

「猫の集団」

猫の集団が襲ってくる。

「神と妖獣の攻撃」

神と妖獣のスペルカードが出てくる。

河城 ゆとり

河城にとりのお姉ちゃん。昔、河童のリーダーだった。（外の仕事があつてできなくなつた）

血液型…… B型

誕生日…… 不明

年齢…… 不明

種族…… 河童

能力…… 機械なら何でも作れる程度の能力

河城 ゆとりの絵です。（予定）にとりに似ていてすみません。にとりとは、違う部分があります。

スペルカード

科学「ロケットパンチ」

リュックサックの中から機械の手が出てきてパンチしてくる。

河童「ロケットキューカンバー」

すごい速さできゅうりが飛んでくる。

河童「機械キューカンバー」

かたいきゅうりが飛んでくる。

水符「ウォーターシエルフ」

水でできた棚が落ちてくる。

滝符「鯉の滝登り」

相手の下から水が出てきて上にいく。夏だと熱いお湯になって、冬だと冷たい水になる。

キャリア・プリズムリバー

ルナサ、メルラン、リリカの妹。お姉ちゃん達にあわせている。

血液型……… A型

誕生日……………不明

年齢……………不明

種族……………騒霊（ポルターガイスト）

能力……………何の楽器でも上手に演奏する程度の能力

キャリア・プリズムリバーの絵です。（予定）

スペルカード

演奏「楽器演奏」

音符が落ちてくる。

騒符「キャリア・ソロライブ」

闘う気持ち無くしたりする。

第六話

春雪異変

早苗「……………」

諏訪子「……………」

神奈子「……………」ブルツ

美奈子「寒くないですか？」

神奈子「寒い」

諏訪子「だよね！」

早苗「異変の予感がします！」キラッ

美奈子「寒いから着替えてから行きましょう」

5分後

美奈子「早苗さくん。用意できましたか？」

早苗「できました」

早苗「うーん！奇跡の力が上空と言っています！じや上空にしゅっぱーっ！」カチャ

美奈子「あれ？ 霊夢さんがいますよ」

霊夢「勘で来たんだけど。ねえ、これ異変わよね？」

早苗「異変の予感がしますよ」

霊夢「こつち来て」

霊夢「こつちに行く」「行くならあたいを倒してから行け!」……」バシッ

チルノ「あーれー?」

チルノさんが落ちてつていきました。大丈夫でしょうか?

早苗「い、行きましょうか?」

霊夢「……」コクッ

レテイ「待て! いくらなら私、レテイ・ホワイトロックを倒してからいけ!」

霊夢「それは負ける時の言葉よ」

レテイ「そうなの!?!」

霊夢「そうよ」

レテイ「えっ。ありがと!ちよつとそこでまっつてよ。最初からやり直しね!」

霊夢「いいわ」

レテイ「いてよねー」シユー

霊夢「今のうちにいきましょ」(引っかかりやすいわ)

美奈子「あつ誰かいます!」

橙「私は紫しやまの式神の藍しやまの式神の橙だよ！　ここを通してしまおうと紫しやまと藍しやまに怒られるか「早くしてよ」ムー喋っている途中だ！　そんなこと言うからもつといかせたくないぞ！　ここを通るな！　っていなくなってる?!？」エー!!?

美奈子「良かったんですか？」

霊夢「いいのよ」

藍「はあ。私の可愛い橙を倒すとは。橙も修行が足りないようだな。で何をしにきた」

霊夢「あ、紫のとこの式神じゃない」

美奈子「異変の事について何か知りませんか」

藍「聞いてない。そして紫様の知り合いか？」

霊夢「そうよ」

藍「そうか。紫様は良いと言っていたな。なら通つてもいいぞ」

リリー「……ですよー！はーるですよー！春来ないよー」

美奈子「こんにちは。今異変がおきているんですよ」

リリー「そうなの?!？」　私リリーホワイトだよ。ばいばーい」

美奈子「穴がありますよ？」

く白玉楼前く

妖夢「やつぱり来たな。私は魂魄　妖夢お前たち何しに来た！」

早苗「異変を解決しに来ました」

妖夢「ならいざ勝負！」

妖夢「人符「現世斬」

早苗「奇跡「ミラクルフルーツ」

霊夢「霊符「夢想封印」

魔理沙「待てく！　恋符「マスタースパーク」

美奈子「妖怪退治」

妖夢「いきなり全員!!?　ずるいですよ」

く白玉楼く

幽々子「もうすぐで満開になったのに。妖夢は何してるのよ。白玉楼前あそこの警備に置いといた意味無いじゃないの。それにあんなにはりきってたのに……」

満開?　あの桜の事かな?　確かに満開になると綺麗そう桜く。

幽々子「私は西行寺　幽々子よ。いくわよ。死符「ギヤストリドリーム」

霊夢「霊符「夢想封印」

幽々子「反魂蝶」

早苗「えっこつちも!!?」ドーン

幽々子「うふふ」

霊夢「むっ美奈子いつちやつて」

美奈子「はい!」神々の襲撃」

幽々子「うわっ」ボーン

幽々子「ふにゃく?」

美奈子「あ、早苗さんどうしまししょう?」

霊夢「つれてつたらいいじゃない」

美奈子「そうですね」

く守矢神社く

美奈子「ただいまです。早苗さんを連れて来るの大変でした」フー

諏訪子「お帰りく」

神奈子「だから遅かったんだね」

早苗「すく」

美奈子「お布団の中に入れてみましょう」

「「いただきます」」

ー少女夕食中ー

「「ごちそうさまでした」」

「おまけ」 霊夢に言われた後のレティ。

レティ「うーんあれがいいかな、いやあれの方がいいかなうーんあれに決めた！」
レティ「待たせたわね！　って誰もいなーい！　騙したわね。あの巫女」ワナワナ
レティ「今度会ったら氷ずけにするわ。絶対に〜!!?!!?」ムカムカー!!
終わり

第七話

紅霧異変&春雪異変

宴会

（博麗神社）

霊夢「はあ何でここでやるのよ！」

うわつ 霊夢さんが怒りました。

諏訪子「神奈子お酒飲んじやダメね」

早苗「そうです！ お酒は飲まないでくださいよ」

美奈子「？」

神奈子「えー飲みたいよ」

早苗「ダメです」

神奈子「飲む！」

諏訪子「ダメ」

神奈子「飲む」

諏訪子「飲む！あつ……」

早苗「神奈子様く！ 飲んじやいけませんよー」ムカツ

神奈子「は、はい！ 分かりました。今日は飲みません」（早苗が言うとかか……）

レミイ「咲夜くフランが飲める酒を用意して」

咲夜「かしこまりました」

フラン「やったあ！」

咲夜「どうぞ」

「わーい」ゴクゴク……ゴツクン

幽々子「もつとご飯ちようだい！」

妖夢「そう、幽々子様もつとたくさん食べてください！宴会ですから爆発する寸前ま

で!!？」

チルノ「いっぱい食べ物がある！」

大妖精「チョコマシユマロだ！妖精のマーチとか神の山、紫の里もある！」ブツブ

ツ

リグル「また大ちゃんがああなったよ」

ミス「みなさーん！明日お店だすので来てくださーい！」

リグル「宣伝してる!!？」

ルー「そーなのかー？」

神奈子「やっぱり飲む！」

諏訪子「次はかからないぞ！」

神奈子「どう思う？ 美奈子。飲んでいいよね」

美奈子「みんなそう言っていますからお酒は飲んでいけませんよ。神奈子さん」
神奈子「美奈子まで〜！」

早苗「ほら、美奈子も言っていますから。ダメですよ」

神奈子「……ズーン」

魔理沙「霊夢食べないのぜ？」

霊夢「博麗神社でやらなくても良いじゃない」ハア—

魔理沙「キノコスープ美味しいんだぜ！ 霊夢も食べるんだぜ。おりや」

霊夢「ゴプツ」ゴツクン

霊夢「確かに美味しいわね……」

魔理沙「だろ〜もつと褒めても良いんだぜ」フフーン

霊夢「魔理沙が作った訳じゃないでしょ」

私が作ったんですけどね。美味しいって言ってくれました！嬉しく〜！

妖夢「その数だから普通だと…… 30万円以上！ やっぱり宴会は参加したほうがいいですね〜♪」

幽々子「……」ゴブゴブ

幽々子「もつとちようだいつてばー！」

リリー「美味しいね〜レテイさん！」

レテイ「そうね。最近食べてないのもあるし。こんなに美味しいの初めてね〜」ガブ

リリー「……」大食いの人みたいな感じになってますよ!!??」

レテイ「あら、そう？」

チルノ「大ちゃん、ね〜つてまたこうなつたたよう！」

大妖精「チョコマシユマロ〜神の山だ！」

リグル「……」

ミス「来る人〜」

??「あ、じゃあ行こうかな。妹紅一緒に行こうか」

妹紅「ああ。というかミスティアお店やってたんだな」

ミス「はい！」

神奈子「ちえっ！。酒飲みたかった」

諏訪子「たーべもーの、たーべもーの！」

美奈子「美味しいですよ。私が作った食べ物ですけど」

早苗 「前より美味しいですかね？」 カプツ

早苗 「前より美味しい！」

美奈子 「ありがとうございます」

ー少女宴会中ー

早苗 「美味しかった」

諏訪子 「帰ろーよー」

く守矢神社く

美奈子 「おやすみなさい」

諏訪子 「うん。ふわあー」

神奈子 「眠たいな」

早苗 「おやすみなさい」

第八話

美奈子日記

○月×○日×曜日

寺子屋の帰り道、おばあさんが荷物を重そうに持っていたから私は、荷物を持ってあげた。そしたらお礼にとおばあさんにカレールーを貰った。だから今日の夜ご飯はカレーにしようと思う。このカレールー、私はいつもカレーは中辛だけとおばあさんは私のことはまだまだ子供だと思ったのか、甘口をくれた（まだ子供だけ（仮））。おばあさんとカレールーに文句は無いけどさ。私実は甘口を食べたことが無いんだ。最初食べたカレーは中辛で『カラツ！』と思ったけど、いっぱい食べていたら、いつの間にか平気になっていた。『カレーお母さんが買ったの？』と私が聞いたら、お母さんが『神奈子さん達に内緒で持ってきたの』と言ってカレーをくれた。きつと神奈子さん達は大人（一人だけ大人じゃまだ無い人がいるけど）だから辛いのを食べてるからだろうと思つた。夜ご飯が楽しみだ。

○月△○日○曜日

昨日の私が作ったカレー美味しかったなあ。お母さんも、神奈子さんも、早苗さんも

美味しい!!? って言ってくれた。その時の私の気持ちはやっぱ『嬉しい』。その理由は美味しいって言われたら、誰だって嬉しいから。まあ美味しかったのは私が作ったからじゃなくて多分、あれが多分一番凄いカレーだからだと思う。それとチルノちゃんも昨日の私の行動を見ていたのか、昨日のおばあさん（また荷物を持っている）を助けようとしていた。私はめっちゃくちゃチルノちゃんを見直した。チルノちゃんのお母さんがいたら、多分泣いていただろう。私はやさしい!!? と心の中で叫んだ。やらないかもしれないけど。でももうちょっとだけ見ていこうと思つて見ていたら、チルノちゃんは「荷物持つの手伝つてあげる」と言つた。おお!!? もしかして妖精（いたずら）卒業!!? おばあさんは「ありがとうね。買い物した後で荷物がいっぱいな」と言つた。チルノちゃん優しいねえと思つたけど次の瞬間!

買い物袋ではなく、杖を持ったのだ! そうするとは思わなくて私はびっくり。あの時見直したの無くしといて。そう私は本当にとでも思つた。おばあさんもそうとは思わなくて杖が無くなつてこけてしまつた。それにチルノちゃんは「ねえ! かき氷ちようだい! 助けたんだから! この××」(鉛筆で真つ黒にされていて見え無くなつている)

○月△△日×曜日

今日は満月の日。なぜか、満月の日だけ、妹紅先生が授業をする。妹紅先生に聞いたら、何も言ってくれなかった。チルノちゃんに聞いたら、

「きつと、ずつとトイレをしてるんだ!!？」

って言っていた。へ？と私は思った。慧音先生もそりやあトイレ行くけど、そんな長くないよ。だって、慧音先生がずつと、五時間ぐらいトイレする訳ないから。絶対違うから。確信が持てるぐらい。約束をしても良い。これ以外だから、大妖精ちゃんに聞いたら、

「慧音先生だって、忙しいんですよ。満月の日はきつと、仕事が二倍になるんです」

って。うんやっぱり大妖精ちゃんは、真面目だね。妖精とは思えないほど。感心しちゃう。チルノちゃんと比べたら、とても凄い事になっている……。

第九話

ばれた

諏訪子「ねえ美奈子……」（美奈子の日記らしきもの見ちゃったよ）

美奈子「何ですか？」

諏訪子「美奈子って日記書いてる？」

え？書いてるんだけど……。もしかしてばれた!? 私、机の引き出しにしまつて、

鍵も付けて、嚴重に入れて置いたはずなのに。どうやってばれたんです？え？

美奈子「かかか書いてませんよー？」

どうしよっ！めちやくちや変な言い方ですよね！

諏訪子「うーん。本当に？」

よし。次は普通に言いますよ。

美奈子「書いてませんよ？私何で、書くこともありませんし、ノートを開く時も、勉強以外全然ありませんもん」

これは行けました！これでばれないはず！

諏訪子「ふーん。じゃあこれは誰が書いた日記だろうねー？美奈子日記って書いてあるしねー？」

づつ。これは言い返せません……。どうすれば？考えれば出るかもしれませんが！

早苗「あーれー？どうしたんですか？」

あつ！早苗さんだ！助けを求めよう！

美奈子「早苗さ〜ん！私って日記か「何ですか！これ!!」？美奈子日記って書かれてますよ！」

そうか。早苗さんはこういう人でした。好奇心満載の妖精の様ですね。私は、これから早苗さんに助けを求めるのはやめておきましょう。何か怖くなって来ましたし。

諏訪子「見る？」

早苗「見ます見ます！えーつと？寺子屋の帰り道……。おばあさんが荷物を重そうに持ってたので、持った。プー！」

美奈子「おばあさんの手伝いして何が悪いんですか！重そうに持ってたからですよ！早苗さんは持ってあげないんですか！」

魔理沙「あつそびにきーたぜ〜！つてあれ？どうしたんだぜ？冷たい空気になってないか？」

あ、魔理沙さん。今はやめて欲しかったベスト1。来ないで欲しかったですねえ。今こそは。本当に。魔理沙さんに日記見られたくないですよ！めっちゃいじめられま

す!

早苗「すみませんが今はやめて下さい。お引き取り下さい。魔理沙さんまた行きますんで」

ナイスです!早苗さん!これはナイス!ありがとうございますす〜!

魔理沙「じゃあまた?」

諏訪子「で、この日記はどういうことですか?美奈子犯人さん」

あれ?私いつの間に、犯人になってたんですか?私変な事してませんけど?

美奈子「それは私は書いてません。書いたのは……早苗さんです」

早苗「ええ!!?」

早苗さんすみません。この恩は一生忘れません。私にはこの罪は耐えられません。そちらの方が仮の年齢では上ですから。そこら辺は許して下さいね!

諏訪子「さーなーえー!美奈子に何て事をしてるんだ!ひどいぞ!罪を美奈子に押し付けようとして!元々恨んでたんだな!!?逮捕だあ!懲役五年!」

早苗「やめて下さい!それだけはー!助けて美奈子おお!」

美奈子「……」

無言にしてやりましょう。私の日記を読んだ罪ですね。それぐらいの罪になって当然です。それに私はもう早苗を信じません。緊急事態以外では。

諏訪子「さ、行こつか。早苗。はい手出して」

早苗「え？はい良いけど」(注射するんですか?)

諏訪子「ガチャツとな」

早苗「え！何でですか!?何で！」

さようなら。早苗さん。また五日後に会いましょうか。お母さんにとって、の方ですから。私達にとつても五日間ですけど。

美奈子「じゃあ頑張つて下さいね〜！さようなら〜！」

諏訪子「行こうか。警察署に。着くまで話し聞かせてね」

早苗「まつさかー！そんな訳ないですよね！」

諏訪子「ホント」

早苗「え……。美奈子助けてー！やめて！連れてかないで下さい！私明日と明後

日は寺子屋の仕事があるんですー！ぎゃー！」

第十話

天魔

早苗「あー」ダラー

諏訪子「スピースピー」スースー

神奈子「ふわああ。眠たいー」ダラア

美奈子「早苗さん達だらけるだけじゃダメです！」ダーン！

早苗「じゃあ天狗の長がいる所に行ってみましょうかあ」ダラー

諏訪子「良いね」ダラー

神奈子「そうそう。早苗は天さーい。その天狗に会いに行こっか」ダラダラ

美奈子「あのおのく言っている事とやっている事が違うですよ？ほら行きますよ」ズリズ
リ

椀「こんにちは。何をしに来たんですか、美奈子さん」

美奈子「私は天狗の長おきに会いに来ました」

椀「天狗の長……（天魔様か）ならこちらにいますよ」

天魔「誰だ？ 仕事をしている時にやって来た超馬鹿者は……」

美奈子「私は洩矢 美奈子です」

天魔「俺、じゃない。僕は天魔だ。(キリツと！知的に)よ、よろしく(可愛いつ。ど、どうしよう超馬鹿者って言っちゃった。どうしよう)」／／／

椀「(僕？ いつもは、俺なのに。どうしたんですかね？ 天魔様)」

諏訪子「私は洩矢 諏訪子だよ」ハア

神奈子「私は八坂 神奈子だよ」フウ

早苗「置いてかないでくださいよ！ 諏訪子様ー！ 神奈子様ー！ あつ！ 天魔さ

ん？ 私の名前は東風谷 早苗です(天魔だけしか聞き取れなかったよ。どうしよう！

何を言っていたんだらう!??)「ハアハアハアハア

美奈子「早苗さん、大丈夫ですか？」スツ

天魔「(やつ優しい！ こんな優しい人初めてみたぞ！ それだけでもっと可愛くみえてきた！ はっ！ 俺は何を言っているんだ！ こんな美奈子ちゃんごときに。でも可愛い！ よし！ 家に行こう！)もつ椀？ この子達の家今から行くね？」

椀「いやでもー天魔様まだ仕事ありますよね？」

天魔「でも行く！」テクッ

椀「ダーメーですよ？」ムカツ…ズリッ

天魔「うわー(はっこんな美奈子ちゃんごときに…いや俺何言ってるんだ！

ちゃんなんて使つて。いやでも可愛い、いやでもダメだ！ いやでも可愛い。もう無理だ〜！）」

美奈子「さようなら〜天魔様と椀さん」ニコ

天魔「さ、さようなら〜（今の笑顔っ！ 可愛いっ可愛いっ可愛いっ）／／／

椀「天魔様、どうかしたんですか？」

天魔「なっなん何でもないよ」ダラダラ

椀「（天魔様がおかしくなったような気が……）」

天魔「（椀が見てないっ今だ〜！）」

天魔「（行くぞ〜美奈子ちゃん待つてろよ〜！）」

天魔「（ここかつ この神社か!?）」

天魔「あれ？ いない……（何だ？ 後ろに怖い気配が…… 椀か?）」

椀「仕事でーすよ〜！」

天魔「やつぱり！ 離せ〜椀〜！（せっかくここまで来たのにまたやり直しかつ！

この椀め〜！ 椀の能力がなけりや良かったのにつ！ こっの〜！）」プンプン

椀「もうっ！ 天魔様だから仕事が残っていると云っているじゃないですか！」

天魔「戻ろう（もしかしたら途中で美奈子ちゃんに会えるかも）」

椀 「先に帰ってますね」

天魔 「(あつ！ あそこにいるな！)」 サツ

美奈子 「霖之助さんってかっこいいですよね」

天魔 「！」 ガーン

早苗 「そうですよね」

美奈子 「でも天魔様も結構かっこいいです」

早苗 「そうかなあ」

神奈子 「あはは！」

諏訪子 「それより、プリン、プリン！ おやつプリン！」

美奈子 「家に氷で冷やしてありますから冷たいですよ」

天魔 「(ま、俺が負けただどく！ それと美奈子ちゃん！ 『結構』って何だよー。俺そんなんにかっこいい訳じゃないのか?!? 霖之助よりはかっこいいだろ?!? な?!?)」

第十一話 逃走中①

早苗「暇ですわね」

諏訪子「うんうん！例えばさあー何か変な事とか無いかな」

紫「ふふふ……！そんな貴方の為、逃走中というものを持って来ました」

早苗「あー！何かテレビにあるあれですよね？」

紫「ふふふ！そんなはしゃぐなら、明日の朝7時にゆとり達の家に来てね」

神奈子「(朝7時って結構早くない？それと早苗もしかしてこれ行くの……?)」

翌日

早苗「行きますよっ！美奈子達！テレビでやってる面白い番組の事が出来るなんて、

早々無いですよ!!？」

美奈子「はいはい。分かっていますよ」

早苗「諏訪子様達はどうするんですか？」

神奈子「ふわあ、あ、ごめん。ちよつと眠たくてさ。えっーと……(紫なんて言っ

たっけ？忘れちゃった)」アワワ

諏訪子「違う用事で『ゆとり達の家に来て』って紫から言われたから行くよ」

神奈子「そうそう。その言葉を思い出せなかったの！」

美奈子「つまり行くんですね？」

早苗「諏訪子様達も行くそうなのでレッツゴー！」

「ゆとりにとりの家」

紫「みんな来てくれたのね〜！ありがとう！」

ゆとり「みんな〜！説明を始めるからよ〜聞いてね。まず逃走中とはハンター（鬼）が逃げる人を追いかける。ここまでは鬼ごっこと一緒だけど……。でもここが鬼ごっことは随分違う所、まあつまりは重要な所かな。それはミツシオンがある所だよ。ここで鬼ごっこと随分異なる所なんだ。ミツシオンは一個一個違うよ。それにミツシオンが出来なかつたら『終わり』という訳でも無いから安心してね。でも『終わり』の時はちやんと『出来なかつたらゲームオーバー』とかでもつけとくから大丈夫だよ。色々ミッションはあるけど、全部説明したら、逃走中の時間が短くなつちやうかもしれないから、ミッションとかの説明は終わりにするね。そして逃げる人！ハンターに捕まったらゲームオーバーだよ。捕まったら牢屋に行くよ。逃げる人はハンターから最後まで逃げ切ったら賞金ゲットだよ！賞金は、全部で100万円だよ！もし無理そうだったら

やりたい時に自首も出来るんだ。自首したら、その時分の賞金を自首した人にあげる。多分説明はこれで終わり」

幽々子「チキン〜！むにやむにや」

霊夢「……………いい加減起きろっ！」ポカッ

幽々子「痛い！何するのよ霊夢」

美鈴「ほらダメですよ〜！幽々子さん」

霊夢「そうそう！美鈴もつと幽々子に言つてやつてよ！」

美鈴「寝る時はちゃんんと寝言をたてないように寝なくっちゃー！」キラーン

レミイ「咲夜呼ぶわよ？」

美鈴「すいません！すいません〜！それだけは〜！」

レミイ「じゃあ逃げ切つたら良いわよ。でも逃げ切れなかつたら『咲夜のナイフの刑』よ！」ニヤア

にとり「あのおハンターのサンプルがあるんだけど」

ゆとり「よし！やってみて」

にとり「ほちっ」

シューボツ！ドボーン

ゆとり「何が起こったの？」

にとり「えーっと？ハンターのサンプルがすごい速さで走ってって、炎がついて、川に落ちたよ」

ゆとり「あつ！そうなるかもと思って、この人に来てもらってたんだった」

妹紅「は？そんな為に私を呼んで、この服を着せたのか？」

ゆとり「えへへ。そんな事言わないですよー」ポチツ

妹紅「(走るのかな?)とりあえず幽々子まで突っ走りだー」

幽々子「えっ!?私!?うわー！逃げろー！」ダダダ

妹紅「つて感じか？」

幽々子「うふふ。私演技上手うまかつたたでしよー」(演技のつもりじゃなかったけどね！)

美奈子「上手かつたからどうぞ」

幽々子「うわっ肉まんだー！全然妖夢が出してくれない肉まんだー！」

美奈子「それとチョコレートです」

幽々子「わーい！美奈子優やさしー私わたしチョコめつちや好きなんだー」

にとり「本当はハンターをロボットにしようと思ってたけど、幻想郷じゃ無理でー。

では妹紅さんどうぞ〜！」かちや

妹紅「うわっ……………」

ゆとり「(さっきのは偽物)言うの忘れてたけど、ハンターサングラスかけると意識はそんな無くなりまーす！」

にとり「こちらも言うの忘れてましたー！すいませーん！」

紫「みんなー！逃げて〜五分後ハンターが追いかけるわよー！」

五分後

美奈子「(あれ？私は何で早苗さんと一緒に木の上に隠れているんだろう？えーつとこの木に隠れててそれを見つけた早苗さんが私と一緒に隠れたんだつた。ここはハンターボックスのすぐ近くの木です。あつ！ハンターが見えて来ました〜）」

早苗「……………」

妹紅「……………！」ダッ

魔理沙「ば、バレたんだぜ〜！」

妹紅「……………」タッ

魔理沙「始まって1分もたつて無い時に、捕まるなんて恥ずかしいんだぜ？妹紅。あつ！今そんな意識無」シユウン

美奈子「(捕まつたらすぐ消えた!?)」ビツクリ

早苗「あの……美奈子？私スリルが欲しいから行つて来ます」

美奈子「私も行きます！一緒に辞めた方が良いでしょう、一緒に辞めますけどね」

早苗「そうですね。誰でもスリルは欲しいですよね」

美奈子「スリルの為じゃないですよ？早苗さん。ここにずっと居たら面白くなさそうだからですよ」

早苗「あれ？それがスリルじゃありませんでしたっけ？」アレレ

早苗「そ、そういうえばハンターがさつき！」

美奈子「居たんでしたー！」

妹紅「……」ダダダダ

早苗「あつ！丁度良い所に霊夢さんがいる！」

霊夢「さ、早苗ハンター連れて来ないでよ！私はひっそりとハンターから逃げ切るつもりだったのに！」

早苗「えへへ」

美奈子「そんな事言ってる場合じゃ無いですよ!?!? 私は大丈夫ですけど、人間の早苗さん達は無理じゃ無いですか?」

霊夢「人間舐めないでよっ! それに私達は巫女だから普通の人じゃ無いのよっ! つてあつ! 角があるわ! 私は右に行くから、貴方達は左に行つて!」

早苗「は、はい!」

美奈子「あ、ハンターは霊夢さんの方に行きましたよ!」

早苗「良かったらつて! 『良かったら』じゃないですよ! 私! 霊夢さんが大変じゃ無いですか!」

美奈子「霊夢さん大丈夫かな? ハンターに捕まらないですかね?」

早苗「霊夢さん! うっうっうっうっ! 勇敢な姿でしたよ!」 シクシク

霊夢「死んで無いわよ私は!」

美奈子「そういえば霊夢さん。あのハンター(妹紅さん)はどうしたんですか?」

霊夢「(無視?) ハンター(妹紅)は撒いてきたわよ」

〔牢屋〕

魔理沙「私だけ捕まって嫌なんだぜ。霊夢は捕まって無いのに! もしかしたら、私

今ぼっち？ぼっちは嫌なんだぜ！友達いないみたいで
は草に隠れても帽子があるから無理だったぜえっ!!!」
やなんだぜっ！そういえば私

第十二話

逃走中②

ミツシヨン 1

捕まった人数：一人。

残り何人：二十人。

『ミツシヨン 1。文がそこら辺に飛んでいる。射命丸文に見つかるかとハンターを呼ばれる。それを止める為には、15分以内に姫海棠はたてを見つけないと、ずっとそこら辺文が飛んでいる事になってしまう。それを止める!』

早苗「ひー!こんな文さんが怖いと思った日は無かったです!他に経験が無いんです!すいませんね!そういうえば鴉天狗からすてんぐつていがいと怖い名前でしたね!特にはたてさんより文さんの方が怖いし、悪っぽいですよね!よくよく考えたら文さん怖いですよね!」
ペラペラ。ムキー!

なぜこういう自体になっているかというのと、ミツシヨンで文さんがそこら辺に飛んでいるという事を『スマホ』?という物で見て、急いで草むらに隠れたからです。ミツシヨンは行った方が良いと思いますよ。早苗さんは何か言ってますけどね。霊夢さんは『もう無理だー』って顔してますよ。この状態何?本当にこの状態何

?紫さん…… じゃない誰でもいいから、それだけ教えてくださいよ……!!

美奈子「あ!ハンターです!隠れて」

早苗「!」サツ

霊夢「!」サツ

妹紅「??」キョロキョロ…… テクテク

ふう。またまた間一発!意外と今日私達運が悪いかもしれませぬ……。このままじゃちよつと見つかりやすくなつてしまいます。じゃあこうしますか。

美奈子「私、今から違うところ行きます」早苗「じゃあわたムグツ!!?むゆにやこにやに「しつ!」……」

霊夢「そうね。このままだったら見つかりやすくなつちやうわ」

美奈子「じゃあ行きますね」

まずは安全確認ですね。もしそこにハンターがいたらすぐにみんな見つかつて、終わりです。

美奈子「」チロツチロツ

美奈子「また会いましょうね」

早苗「はい!」

美奈子「ふう」

妖怪の山を降りて、人里に着いたんですけど、全然人いなくてですね。逆にハンターいそうです。

ディレクター（？）「逃げ切れたら賞金何に使いますか？」

美奈子「うーんやっぱりあ！ハンター！」

見つかつた！逃げない！

美奈子「ここ曲がつて！そこを曲がつて次曲がつたら妖怪の山につきます！巻き添いにしましょう！あ！霊夢さん！また別れたんですか？」

霊夢「いやちよつとアンタ二回目よ？ハンター連れてくんの。ここまで来るのにも体力使つたのに……。でも逃げ切れないと！魔理沙に失礼だし」

美奈子「走つてただけです！それでそこにちようど霊夢さんがいただけですから！つていか美鈴さん！ハンターいます！逃げて！つてあれ？どうしました？起きて下さい！」

美鈴「ハッ！ハンター？」

美奈子「そうです逃げて！」

霊夢「はあ！はあ！」

美奈子「大丈夫ですか？ 霊夢さん」

霊夢「ハア？ 何でアンタ全然疲れてないのよっ！ はあ！ はあ！ はあ！ もうっ！ そろそろ無理、かもはあ！ はあ！」

美鈴「ぎゃー！ 咲夜さんが追いかけてくる！ つて思えば大丈夫でいったあ！ 何で咲夜さんがここにいらっしゃるんですか！」

咲夜「貴方が連れて来たからよ！」

霊夢「もっ！ 無理はあはあはあ！ もうニキロ以上走ってるわよ！ はあ！ はあ！」

美奈子「あつ！ いつのまにかハンターいません！」

霊夢「え！ 言いなさいよはあはあ！」

美奈子「あつ文さんです！ 霊夢さん達逃げて下さい！」

妹紅「ダダダダダ」

美奈子「うわっ！ 早いです！」

妹紅「シユウン： テクテク

美奈子「!?」

いきなり妹紅さんが止まって、反対の方に歩いて行きましたよ………？ 何かあったのでしょうか。

ピピピピ

美奈子「ぎやあつ!??..... 何だスマホですか..... あつ！見ないでー！今のところだけ見せないで！お願いします。作者さーん！ここだけはあ！」

作者（いない）「無理！」

美奈子「あ！待つてくださいい〜！作者さあーん！ああ..... 私と同じ猫として走るの早いです.....」

美奈子「で、スマホスマホ！えーつと？ “秋穰子のミッション参加により、第一ミッション達成。これにより、射命丸文は動かなくなつた。” ですって！穰子さんだ！凄いですね！あれ？静葉さんはどうしたんでしよう？別行動してたんですかね？ちよつと電話してみますね」プルルプルル

美奈子「もしもしー？」

穰子（電話）『はーいもしもし』

美奈子「凄かつたですね！ミッション達成って！穰子さん、静葉さんはどうしたんですか？」

穰子『は、はぐれちゃつて.....』

美奈子「ああ。そうですね..... すいません。聞いちゃつて」

何かめちやくちや申し訳ない気持ちになつちやいました..... 聞くんじやなかつたですね。後悔してます.....

穰子『あのー』

美奈子「あっはい。何ですか？」

穰子『私、今からお姉ちゃん探すので切っても……』

美奈子「良いですよ！じゃあ頑張って下さいね！」

ガチャ

美奈子「ふう」プルルプルルル！

美奈子「うわ…… コホン。もしもーし」

パチュリー（電話）『美奈子ってまだ捕まえられてない？』

パチュリーさんは心配してかけて来てくれたみたいですね。嬉しいです！

美奈子「はい。心配してくれたんですか？」

パチュリー『ちっ、違うから！暇だったからよ！切るわね！』

美奈子「あっ…… 切れちゃいました……」

第十三話 逃走中③ミツシヨン2

『ミツシヨン2。皆半分の鍵を持っている。二人で、鍵を作れなければ、即失格になる。』

美奈子「ええええ^{!!?}さつき別れたばかりなんですけどー！」

さつき「霊夢さん達逃げてくださいー！」みたいな感じな事言うんじや無かつたです……。時を戻したいですよー！もう！咲夜さん。あつ咲夜さんは、時を止めるだけでした……。とにかく人を探さないといけません！」

美奈子「誰かいませんかー？」

美奈子「……わあ。誰もいないみたいだに静かですなあ。はあー。誰か

「おおおーい!!？」^{!!?}」

急にあつちから、大きな声で誰かが呼びかけて来ましたよー！誰でしょうかね？

ちよつと幽々子さんみたいな声みたいでしたけど。チガウヨネー。ハハハハハ。

幽々子「あつ！美奈子おお！」

ぎやあああ^{!!?}幽々子さあーん^{!!?}?

美奈子「うわああつ！こつち来ないでくださいー！」

幽々子「見つけたわよー！」

美奈子「怖いです怖いです！ホラーになつてますよ!!?やめて下さあい！」

幽々子「ほら、出して」

美奈子「な、何を？何を出すんですか！も、もももしかして……死体!!?»

幽々子「いや？そんな訳ないじゃない♪も〜！」

幽々子さんだからですよ。幽々子さんの能力の事です。死を操る……。私は死にませんけどね！あははは！神の力のおかげですね。ありがとうございます〜！助かりました！お母さんのおかげですねえ〜！お母さんが私を作ってくれたからです。よ。作ってくれないや生きてませんけどね。というか、もしかして幽々子さんの……ほら、出して。つて意味……

美奈子「あ！鍵ですか？もしかして」

助かりましたよ〜！ありがとうございますねえ〜！幽々子さんも意外と良い事するじゃないですか〜♪も〜優しいんですからあ〜！

幽々子「そうよ」

美奈子「はい！これです。私の鍵は。幽々子さんも出して下さい！」

やったー！解除出来るー！怖かったけどありがとうございます〜！幽々子さん！

幽々子「ん？私ならレミリアと一緒に解除したわよ〜？」

うん？ どういうことかなあ？

美奈子「ええええ^{!!}?あの時、幽々子さん、『ほら、出して』とか、私が、『あ！鍵ですか？もしかして』って言いました。その後幽々子さん……『そうよ』って言ったじゃないですかあつ！」

意地悪うつ！

幽々子「あれ〜？私何かしたかしらあ？ん〜？」

美奈子「はあはあ。他の人を探さなきゃいけませんね。鍵を絶対に持っている人をです。ね早苗さんでも電話で呼びま「プルルルル！プルルルル！」うわっ！ハンターだと思っうじゃないですか！スマホさん！もうちよつと慎重にしてくれませんかね〜。困ってるんですよ……。作者さんどうにかして下さいよ。どうしても思い付かなかつたからですよね」

作者「そんな事言わないで下さい……」

美奈子「はあ〜。もう誰もいませんよ〜。あつ！後何分ですかね。え〜つと？あと……ええ^{!!}?あと十分^{!!}?やばいですよ！私即失格なつてしまいますよ！」

レミリア「あ！美奈子ー！」

フラン「あつ！美奈子〜！一緒にやろー！」

美奈子「えっ！二人も出来ませんよ！どっちかが出来ない事になってしまいますよ

！」

フラン「お姉様！ここはフランにやらせて！お姉様は運命を操ればいけるでしょ！」

レミリア「そこまでは出来ないわよ！私の能力の事何て思ってるのよ！」

フラン「楽！」

レミリア「ええっ！私の能力をそんな事に使うんじゃないわよ！私が美奈子とやる
！」

ん？幽々子さんレミリアさんとやったって言ってませんでした？あれ？私の記憶違
いでした？あれれ〜？

フラン「お願い〜！お姉様〜♡」キュルルーン

レミリア「ぐっつ！」（可愛い！どうする？可愛すぎるわ！さすが私の妹！）

レミリア「ぐっつ良いわよ……」

フラン「やったー！ありがと〜お姉様！」

美奈子「あ……レミリアさん、が、頑張つて下さい……」

レミリア「うおおっ！探すぞ！」シューーン！

凄い速さでレミリアさんが飛んで行きました。相当失格になりたくない様ですね……。レミリアさん。

フラン「はい！ガチャ！出来たね！やったー！じゃーお姉様が出来るか見てくるー！こっそりね！」

凄ーい。鍵が出来ました！金に光っていて、持ち手がとても太いです！それに合う、鍵穴があるんですね、きつと。それだったら、大分、大きい鍵穴ですよ。きつと！

美奈子「あつ！スマホが……。えーつと。ミッシヨン2終。失格者、レミリア、幽々子。他の者は出来た。です！？ももももーしかして！幽々子さん違う事言つてたんじゃないですか！？間違えてたのかも……。？」

幽々子さん達だから失格に……。レミリアさんだつて出来てませんでしたし。フランさんきつとガツカリしてますよ！それに、私だつてとてもガツカリしましたよ！はあー。もうガツカリし続けますよ！レミリアさんつぽくないですよ。何もかも出来るレミリアさんが。

第十四話

確保

ミッシヨンもう二個も終わりましたね……。やつと……。結構疲れました……。あつ！隠れないと！見つかつちやいますよ。見つかつたら大変ですね。

妹紅「！」

美奈子「うわっ！言ってる間はずるいですよっ！」

大変です！悪い予感もしてましたし！誰かいませんかね！いたら巻き込みじゃいましょう！

早苗「あ。美奈子、走っ「ハンターです！逃げて下さい！」え！ちよつと巻き込まないでつて！というか美奈子足速っ！」

美奈子「とにかく逃げます！あつ電話電話」

早苗「何で今電話するんですか?!？意味が分かりません！」

美奈子「あつ霊夢さん?『どうかした?私に何の用よ。私忙しいのよ』ちよつと今から……。そうですね。じゃあ」

早苗「(地図見てどうするんでしょ……)」

あつちにある店は…… 私達が今ここで走ってますからここら辺ですね。えーつと

名前は…… 団子山ですね。名前の意味がどういう事か？とにかく霊夢さんに言いましょう。霊夢さんを巻き込んでやる…… ふっふっふ。いつも私をいじめてる霊夢さんが悪いんですよ。

美奈子「じゃあ団子山に来て下さい！丁度そこにいますから。今すぐにです！『分かったわ（何かあるのかしら……）じゃあ後で会いましょう！』」

早苗「何で読んだんですかあ！巻き込む事になるかもしれないじゃないですか！というか疲れた…… はあー」

早苗さんは疲れてる様ですね。早く霊夢さん来ないと早苗さん捕まっちゃいますよ？

霊夢「どうしたの？ってハンターじゃないっ！何連れて来てんのよ！」

美奈子「えっと待ってたら来たんですよ！だから何回も回って回って回ってたんです！それを続けて今です！」

霊夢「ちよつと！ここまで来るのにも疲れたのよ!?？それに早苗もいるし！そんなの聞いてないわよ！」

早苗「はあつ！大分追いかけられてるんですけど！助けて下さい！奇跡の力ああ！私だけでも助けて下さいよお！」

霊夢「アンタだけは駄目よ！私も入れなさい。もう邪魔よ！」

早苗「邪魔!??うわあーん! 霊夢さんの意地悪! 神奈子様と諏訪子様に言つてやる! どうなつても知りませんからね! 私に言つた事を後悔して下さい!」

うわー。大分喧嘩してませんか? 大変ですねー。というか追いかけてる時に喧嘩しないでくれませんか? あついつもあの二人あんな感じですかね。私にはもつと酷いんですけどね……。神社同士ライバルなんですよね。

霊夢「早苗! この恩は一分くらい忘れないわ!」

早苗「わあつ!?!?」

ピ。ピ。ピ。ピ!

美奈子「!?? ああつ! 早苗確保。 霊夢さんのせいですよね? 可哀想ですなえ。 天罰を受けますね」

酷い人ですよ。 全く。 可哀想な早苗さん。

早苗「酷いですよ……」

霊夢「もう行くわよ! って!」

美奈子「どうしたんですか?」

霊夢「逃げるわ!」

美奈子「ハンターじゃないですか?」

言つてくださいよ! また酷いですよ!

美奈子「靈夢さん行きます?」

靈夢「何がよ」

美奈子「右行つてください! あそこは曲がり角が沢山あるので逃げやすいですよ! 私は左に行きます!」

一本道ですけれど、靈夢さん貧ぼゲホツゲホツ! ふう。お金はいっぱいある方が良いでしょう。もう靈夢さん右の道行きましたからもう蹴られる事はないでしょう。靈夢さん貧乏ですから。よし言えました! で、ハンターは?

美奈子「うわあつ!? ハンターじゃないですか?! てつきり靈夢さんの方行つてると思つてましたのに! それに大分疲れたんですけど! ちよつと…… 捕まっちゃいますよ……」

妹紅「」

わー。容赦ないですねー。もう私は捕まります。いくら神でも負ける時は負けるんですよ。さようならこの世。そこまでじゃあないですけどね?

美奈子「出来るだけ行きますよ! もしかしたら自首する電話があるかもしれませぬ! よし! 探しますよ! 行きます! あ地図あ…… こつちに無い……」

美奈子「あつ!」

あ……。

妹紅「」

去って行きました……。と言うことは私捕まっちゃったって言うことですか……。仕方ないですね。ずっと走ってたんですから。そりゃあ負けますか……。

美奈子「はあ」

あつ。牢屋ですね……。

美奈子「あつ。魔理沙さん、早苗さん！捕まったら強制何ですね」

早苗「捕まっちゃったんですかあ……」

魔理沙「最初じゃなくて良かったな！私は最初だぜ」ズーン

美奈子「あはは……」

早苗「あーあ。霊夢さんのせいで捕まっちゃいましたよ。酷い」

あれ？私が霊夢さん呼んだ。で、それで早苗さんが捕まった。っていうことは……私のせいで早苗さんが捕まっちゃってしまっただけですか？！

早苗「私、高校の女子の中では足速いほうでしたのに……。霊夢さんに押されて……」

うん。霊夢さんが悪いんですよ！

早苗「霊夢さん捕まれー！」
二人「そうだそうだー！」

第十五話

逃走中終

「逃走中が終わった後」（桜の下）

早苗「ああーあ。何か私達が走るの遅いみたいな感じで嫌だー。私、女子のクラスの中で六番でしたのに……」

あはは……。私達確かに速かったですねえ。捕まるの。あの後沢山捕まりました。嫌だなあ。走るの結構得意部位に入ってしまったのに。うわああーん！

フラン「わあーい！フラン捕まらなかったよ！お姉様く褒めてく！」

レミリア「あ？」ギロツ

レミリアさんが、フランさんを見て、黒い怒った顔で見えますよ？めちゃくちゃ怒ってますよね……？あれ……。

フラン「あれー？どーしたの？お姉様」

レミリア「何でフランが捕まらなかったのよ私が姉なのに何でフランが？私が捕まらなくつても良かったじゃないフランが美奈子と一緒にやったからそうだったのよフランがな「ちよつと待っててください！ストップストップ！言うのやめてください！」はあ？私が何ですよ！」

早苗「あっち行きましようよ。あっち何か良さそうですよー」

美奈子「あ、良いですね。あそこだったら弁当食べれそうです」

フラン「フランも一緒に食べても良い？」

美奈子「良いですよ。あそこは桜も綺麗ですし、みんなで食べた方が良いでしょう」

フラン「やったあー！」

レミリア「あつ。私も一緒に食べ」「じゃあ行きましようか。ちゃんとシートと日傘持ってますよ」「わあー！フラン今持つてなかったんだ！ありがとうー！」あ……………一緒に……………」

着きました。何か聞こえた気がしましたが、きつと気のせいですよ！あそこには誰もいませんでしたし。レミリアさん以外。レミリアさんがあんなこと言う訳でもありませんしね。もうちよつと真面目な人ですよ。ちよつとだけ馬鹿ですけどね……………。この事はレミリアさんに言わないで下さいね。シヨック受けますだろうし。そういう精神攻撃は、妖怪によく効くので大ダメージになります。だから言わない方が良いでしょう。

美奈子「じゃあシート引きますね！弁当も出しといてください」

フラン「フランのねー！ 咲夜が作った美味しい美味しい弁当なんだよー！」
美奈子「良いですねー！ 咲夜さんも料理上手ですよ。まあメイドですから下手だったら何かダメですよ」

早苗「あー！ タコさんウインナーが神奈子様と諏訪子様と美奈子になつてる！ 色とかもそのまんまですよ。あ、おにぎりとか、霊夢さんと魔理沙さんになつてる！ 凄い！」
ウワアアアア！

美奈子「私の作った、幻想郷弁当です。まだまだ種類はありますが、その種類の一つですよ。私が一晩かけて作りました」

早苗「えー？ 一晩しかかかりませんか？ 私……美奈子に負けたあー！」

フラン「フラン全然作った事ないよー？ フラン役に立たない？」

美奈子「いや全然ですよ！ フランさんのお陰で、逃走中が、私そこまで生き延びましたからね。ありがとうございます！」

早苗「どつかの誰かとは違いますからね……」フツ

レミリア「ん？ ん？ 何か言った？」

早苗「あつ……私、言つてませんよ？ 言つたのはチルノさんですよ？ 間違えただけじゃないですかー？」

大変ですね……。早苗さんが嘘付いてます……。あ、そういえば何か子供が……。私も子供ですけどね？「いーけないんだいけけないんだー。せーんせいについてちやおうー」みたいなのでありましたよ。それと、「嘘つきは泥棒の始まり」っていうのもありますね。という事は早苗さんは泥棒!? 何か盗まれますよ！片付けて何も無い振りしないと取られます！早苗さんプラモデルとか好きですから、そういうのは取られます！持ってませんけど！

美奈子「アワアワ……ガチャガチャ

早苗「あれ？どうしたんですか？何か落としたり？」

美奈子「いやしてません！泥棒は出てつてください！」

早苗「ええ!? 私、泥棒じゃ無いですよ!? 忘れたんですか!? 私良い人でしょう？あれ違いました？」

うーん。美奈子に何したら良いかな。何か優しい事しないとずっとあのままになっちゃいますよ……。何とかして誤解をとかさない。美奈子からの信頼全てがなくなっちゃいます。魚をあげる？高級魚？いやでもここは幻想郷です……。魚は滅多にありませんし……。もうそれだったら紫さんしか……。「ブツブツ……」

あれ。どうしたんです。早苗さんがブツブツブツブツ言ってますよ？私何かしました？

フラン「だいじょーぶだよ！きつと、貴方の事だーい好きだから！」

早苗・美奈子「え？」

フラン「ん？そーじゃ無いの？」

うんまあ……そうですけど。友達として良い方です。ウン。

早苗「えっ!?恋愛!?私無理ですよ！私は……！」

美奈子「そういう意味じゃないですよ？友達として！です。良いですか？友達としてです」

フラン「まーいつか！お弁当食べよ！」

美奈子「良いですね！食べましょう」

早苗「弁当弁当！」

レミリア「あれ？私は？」

第十六話 一時間目

（寺子屋）

?? 「こんにちは。妹紅に呼ばれて来た人かな？」

美奈子 「そうです。私は洩矢美奈子です。よろしくお願ひします」

慧音 「私は寺子屋の先生の上白沢慧音よろしく」

慧音 「一時間目始めますよー」 ガラガラ

チルノ 「あつ、前の奴だー」

大妖精 「奴つて言つちやダメだよ。チルノちゃん」

慧音 「美奈子さん、自己紹介どうぞ」

美奈子 「私は洩矢美奈子です。妹紅さんに呼ばれて来ました。よろしくお願ひします」

大妖精 「あ、妹紅さんが呼んだんですね」

ルー 「そーなのかー」 ジュルリ

ミス 「へー！ 私ミスティアよろしくー」

大妖精 「ミスチー。前美奈子さんに会ったよ」

ミス「え？そうだけ？」

慧音「美奈子さんの席はミスティアさんとリグルさんの真ん中の席です。でもミスティアさんの隣ですから、ミスティアさんに忘れられないように頑張って下さいね」

美奈子「え？あつはい。分かりました頑張ります？」

どういう事でしょう？わすれられる？

慧音「一時間目は妖怪とかの種族の授業です」

慧音「そうですね……最初は吸血鬼です。吸血鬼は天狗のように速く鬼のように力が強い種族です。質問はいつでも言ってもどうぞ」

チルノ「あたひよりは弱い！」フフーン

ルー「そーなのかー？」

美奈子「どうでしょうね？」

チルノさんはそう言ってるけど、吸血鬼結構強いですよね。チルノさんより強いですよなんていったら、ガーンってしますからやらないようにしましょう。妖精は弱い方ですし。

慧音「次は天狗です。さつきも言った様に天狗はとてもスピードが速いです。その中には文という天狗がいて、その天狗が幻想郷で多分一番速い妖怪です」

ミス「そうなんだ」カキカキ

美奈子「文さんは速いですね〜」

慧音「次は河童です。河童は機械を作るのが得意な種族です」

慧音「次は神です。神は色々な種類があります。例えば前行った妖怪の山に居た雛さんも神の一種です」

慧音「次は魔法使いです。その中で私達が知っているのはパチュリーさんなどですね」

ミス「???」カキカキ

リグル「せ、先ー生ミスチーが多すぎてこまってるー!」

慧音「あ、すいません……気づいていませんでした……」

ミス「!!?忘れられてたの!?!」

慧音「わっ忘れてはいませんよっ!」

私も頭の中いっぱいです〜!えっとここまでで言ったのは吸血鬼、天狗、河童、神……私達ですね!他は魔法使いですか。いっぱいですね。でもまだまだいっぱいありますね、そう思うとクラクラしてきますよ。本当ほんとう幻想郷って凄いです!

慧音「じゃあ次は人間と幽霊のハーフです。そういつても人間と幽霊のハーフじゃありません。そういう種族ですよ」

ミス「すごい種族〜」

慧音「……他の種族ありますか？」

美奈子「思いつきません」

慧音「じゃあ一時間目はこれで終わりにします」

大ニュース!!?

美奈子「ニュースです！ニュースです！」

大大大ニュースですよ!!?聞いてくださあい!

早苗「わあっ!!?」

諏訪子「何何!!?」

神奈子「ん!!?」ブシュー

神奈子「美奈子!!?ゲホッ!!?お茶飲んでる時に、そんな突然に大声でニュース
ニュース!言わないですよ?ゲホ」

諏訪子「大丈夫大丈夫。吐いて良いよ」サスリサスリ

神奈子「気持ち悪いんじゃないんだよ!」

早苗「で、ニュースって何なんですか?」

美奈子「それは……!デレデレデレデレデレ……」

早苗「(何でしょう?)」

神奈子「何なんだ!!?」

諏訪子「私の立ち絵!!?」

美奈子「それは違いますねえー。デレデレデレデレ……デン！テツテレ〜！」

神奈子「私の子供の時の写真が見つかったっていうニュース!?」

早苗「いや違いますよ！私の中学の時の恋人とのツーショット写真ですよ！私、今でもその写真、取ってますから！ちゃーんとアルバムに入れて！」

神奈子「えー!?」

早苗「どうかしました？」

神奈子「早苗え!? 恋人出来たなら言つてよ!!? ずっと最近も、諏訪子と早苗の恋人どんな人だろう、つて話してたんだから！意味無いじゃん！二年間ぐらいやつてるのに！」

諏訪子「そうだよ！私、寝る時もずうつと考えてるんだよ!!?」

早苗「ずうつと考えてたら眠れませんか？」

美奈子「……」

諏訪子「それがねえ！眠れるんだよ何故か！私の神の力のおかげかね！」

美奈子「あのお、そろそろ言わせてくれませんか？」

全員「はい。すいませんでした。私達の妄想でした」(やつば！美奈子めっちゃ怒ってる……)

美奈子「じゃあ言います！テツテレ〜！作者様の……」

全員「何何!!?」

美奈子「何と立ち絵が出来ましたああ!」

早苗「ヒューヒュー!」

諏訪子「ドンドンパフパフ!」

神奈子「あつえつと……イエイイ?」

美奈子「で!その絵がこちらです!」

神奈子「ん?」

早苗「何何?」

諏訪子「立ち絵が出来たなんてね!凄ーい!」

美奈子「これは作者様が描いた絵だそうですよ!何か私の妹みたいですね」

諏訪子「つまりこの子は……私の子供!!?」

神奈子「うーん。それは違うね」

早苗「……さささ作者さあん!可愛すぎる!可愛い!!?」

神奈子「あつ。元々の早苗のオタクが出てしまった……」

美奈子「そうですね……早苗さんの部屋にもアイドルのプラモデルとか、可愛い

キャラのポスターとかありますもんね……。私が持ってたレアプラモデルも壊しましたよね。あれ、私忘れてませんからね……。？」

早苗「あああつ！言わないで下さいね！作者さんお願いしますから！これだけはださないでえ……。」

美奈子「無理ですよ。今、小説作ってるそうなので部屋から出られないので声は聞こえていません」

早苗「うわぁーん！私の黒歴史の一つが打ち明かされた！」

全員「という事で東方増神録はレベルアップしました。これからもー！」
作者「宜しく願います！」

第十七話

美奈子の誕生日作戦!!?

諏訪子「今日は美奈子の誕生日だああ！」

早苗「いえーい！いえーい！いえーい！」

神奈子「ドンドンパフパフ!!？」

諏訪子「という事ですね」

早苗「はいはい！」

神奈子「何なの？」

諏訪子「何をするか決めて行きたいと思うんですよ。美奈子の好きな物のプレゼント
どうするとか、飾りとかどうするとか。そういうのを今日はこの会議で言いたいと思
うんです」

早苗「はいはい！」

諏訪子「はいどうぞ。早苗さん」

早苗「魚をプレゼントであげて、飾りは風船・リボン・美奈子誕生日おめでとうって
書いてある丸い紙が良いと思います！それに、魚ケーキに、ケーキプレートのところ

美奈子「ー才おめでどう!!? っっていうのを乗せたら良いと思います!!?」

諏訪子「良い意見ですね。特に良いところは、魚ケーキに、美奈子ー才おめでどう!!? って書いてあるのがめっちゃくちや良いね〜! やっぱ早苗は天才! 早苗だけあるね〜!!? もう、これで良いんじゃない? これぐらい凄かったら美奈子も喜ぶよ。で、神奈子さんはどう思いますか?」

神奈子「私は、もう……… ほとんど、早苗と同じかなあ。早苗完璧だし。私の心見られたかのように同じなんだよね」

諏訪子「つまりは?」

神奈子「うん!!? 早苗ので良いよ!」

早苗「(わーい! 神奈子様と、諏訪子様にめちゃくちゃ褒められましたよ! 嬉しいですう〜! これで、完璧だったんですね! でも普通のやつじゃありません? 私が言ったの)」

美奈子「ただいまですー」

諏訪子「うわああ!!?」

神奈子「あつあつ」

美奈子「あれ? どうしましたか? 何か紙に……」

神奈子「ダメツ! 見ちゃダメツ!!? 良い美奈子。今のは見ていない今のは見ていな

い。分かったね？」

美奈子「え、あ……はい分かりました……」（どうしたんですか。みんな！私だけ仲間外れにして!!？もう酷いですね！）

早苗「ふう〜。危なかったですね。まさか本人が寺子屋から帰ってくるなんて」

諏訪子「予想外だよ……。予定では何も美奈子はこの部屋に入ってこないって設定だったはずなのになあ。何でここに入って来ちゃったんだろう？」

神奈子「それは、ここがリビングだからじゃない？だって、帰って来たら大体サさあ、リビング入るじゃん。何でかは分かんないけど。私達もそうじゃん」

諏訪子「確かにそうだ……」

早苗「リビングの話になってますよ！今は美奈子の誕生日作戦でしょう!!？」

諏訪子「あそうだったそうだった」

神奈子「何にしようか考えてます……」

諏訪子「じゃ考えといて」

お気に入り十件突破記念!!?

美奈子「10人突破記念です!!? いえーい!」パーン

神奈子「いえーい! いえーい!」パーン

諏訪子「やったね〜! ヒューヒューヒュー!」パーン

早苗「あ……………全部かかってますよ? 作者さんとなり……………」

神奈子「あ……………」

美奈子「えー? 違いますよ。私、作者さんの口の中に入ったらいけないなくって思ってますね! 早苗さんなら安心なんですよー! だって早苗さんなら良いでしょ?」

神奈子「そそそそうだね! ささ作者さんのくくく口の中に入ったらいけないももんね!」ブルブル

早苗「あのか? めっちゃ震えてますけど?」

神奈子「そそそそうかなあ?」ブルブル

諏訪子「あ、ごめん。私、間違えて…………… 早苗の方にやっちゃった……………グスツ」

早苗「あつあつ」(どうしよう!?!? すず諏訪子様泣かせちゃった私! どうすればどうすれば!?!?)

早苗「良いですよ」(??)何か変な事言っちゃいました!??何か変ですよね!

諏訪子「ありがと。そういえば私、外の世界のお菓子買って来たんだよ!ほらチョコ菓みにクッキーまで!色々と!ジュースも買って来たよ!」

神奈子「おー!私の好きな、オレンジジュース!ここでは買えない、超貴ちゆう品なんだよね!」

嗚んでますけど……?

美奈子「あつ食べましようか。ほら作者さあーん!一緒に食べますよ」

作者「そういえばこれ私が前、諏訪子にあげたやつだけど。五年ぐらい前に」

早苗「モグツ!??ムわたググツ」

神奈子「えっ!??私、もうこのクッキー10枚も食べちゃったんだけど!??諏訪子お!言つてよ!私、明日下痢になっちゃうじゃん!もー!明日、幻想郷の会議なのに!休まなきゃいけないよ!あーあ!せっかくの三ヶ月に一回の会議なのに。明日は、諏訪子が行かなくちゃいけないみたいだね」

早苗「どどうしましょう!私、板チョコレート2枚食べて、クッキー5枚に、オレンジジュース一杯、更に飴ちゃん5個舐めちゃいましたよ!??食べ過ぎましたよね、これきつと!明日絶対下痢になりますよー!私も丁度、明日寺子屋の授業久々にやる事になってたのにー!酷い諏訪子様!」

美奈子「良かった〜！私、まだ食べてませんでしたよ〜！というか二人とも食べすぎじゃないですか!!?それに早苗さん!!?太っても良いんですか!!?お菓子って、太りやすいんですよ！」

早苗「えっ!どうしましょう！」

作者「ねえねえ、これ私の記念じゃなかったの？」

諏訪子「ごめん!私、ずっと忘れてたんだ！」

作者「どっちの事を？」

諏訪子「どっちも!って何か言ってた？」

美奈子「うん!もうそんなのどうでも良いです!で!お気に入りをしてくれた皆さん

!ありがとうございました！」

作者「頑張るのでよろしくお願いします！」

第十八話

美奈子の誕生日作戦②

諏訪子「じゃあ、飾りは、早苗が言ったやつで良いよね？神奈子。私はそれで良いんだけど」

神奈子「あー、うん。それが一番良いと思うよ」

諏訪子「よし！飾りは決まったので、次は飾りを飾る場所とかを決めたいと思います！やっぱり場所も大事だよ。ぐっちゃぐちゃだったら美奈子も悲しむよね」

早苗「そうですねー！私もそうだったらもう、逃げ出してますね」

神奈子「そこまでなの!?」

諏訪子「じゃあ、案がある人いる？」

神奈子「はい！」

諏訪子「じゃあ神奈子さん！」

神奈子「あつちらへん（壁の奥の方）に、美奈子誕生日おめでどうカードをはって、残りの、リボンと風船は、この壁のところの全部やる！で！ケーキ！それは、この大きい机（こたつ）にドーン！って置くのだ！したら良いんじゃない？」

諏訪子「えっとあつちに誕生日カードでこつちにケーキ？あれ？」

早苗「そうですね！うんうん。ここにこれを置いて！あつちにカードはって！もう完璧じゃないですか！だからもう美奈子呼びましょう！」

諏訪子「あ、ちょっと待ってちよっと待って！」

神奈子「大事な事忘れてる！」

早苗「大事な事……？何かありましたっけ？うーん……うーん……。そうですね！「えっ！分かった？」分かりません！テヘツ！」

神奈子「でも可愛い〜」

早苗「えへへ〜」

諏訪子「甘やかすんじゃないよ！で、準備だよ、準備！考えただけじゃ、何も意味ないでしょ!!?」

早苗「そうか！準備ですか！確かに大事ですね……」

神奈子「よし！じゃあ準備し……ってあれ？」

諏訪子「ん？どうかしたの？神奈子」

神奈子「材料は？」

諏訪子「あ……」

神奈子「どこにあるの？」

諏訪子「忘れてた！」

早苗「えー!!? どうしましょうどうしましょう! タイムリミットが迫ってきてますよ!」

神奈子「あつ美奈子自身にちようだい、つて言えば良いんじゃない? だって、美奈子さあ、何でも出せる程度の能力なんですよ? それだつたら良いじゃん」

諏訪子「そつか! じゃあ私今から行つて来るね! でも……何て言つて貰えば良いの?」

神奈子「うーん……」

早苗「とにかく、丸い紙と、リボンと、風船いっぱいちようだい! つて言えば良いんじゃないですか。もうごり押しです! 後々どうなつてもその時はその時ですよ!」

諏訪子「じゃ、行つて来るね」

諏訪子「たーだいま〜! ちゃんと貰つてきたよ〜」

神奈子「ふむふむ……丸い紙に、リボン、風船いっぱい……つと! 全部ちゃんどあるよ! 良かった良かった。諏訪子だから何か事故起こすかと思つた」

諏訪子「え? 神奈子、私の事どう思つてるの? え? え?」

神奈子「すいませんすいません！って！今はそれどころじゃないでしょ！」

早苗「そうですよ！今は早くやらなきゃ！」

諏訪子「私の神の力で風船をお！しゅー！しゅー！はあーはあー」

神奈子「そこら辺でくたばるかい!? シュー！シュー！ふうくシュー！シュー！よし一個出来た……ってこのままだったら出来くない!? もう一時だよ！私達がやろうとしているの三時だよ！あと、二時間しかない！」

早苗「よいしょ！よいしょ！リボン出来ました！さらには、丸いやつも出来ました！じゃあ私も手伝います！奇跡の力く」

諏訪子「何が起こるんだ!?」

神奈子「一体何が！」

早苗「いえーい！風船の中に空気が全部出来ました！」

諏訪子「後はケーキを作るだけ！」

神奈子「ケーキの材料はどうするの？」

諏訪子「ふっふっふ！そんな事があるかど！私、さつき美奈子から貰って来たんだよ！どー？私の勤！」

神奈子「いや、別に勤じゃないでしょ。とにかく作るよ！」

早苗「エプロンです！服に付いてしまったら取りにくいんですよ」

諏訪子「へー！私のエプロン、胸のところにかえるついでる！」

神奈子「生クリームも、果物もつと！」

諏訪子「出来た〜！」

早苗「やつとですね〜！あ！大変ですよ！後30分しかありません！あと、美奈子呼ぶし、ろうそくも……」

神奈子「じゃあやつとくから、美奈子呼んできて〜！早苗」

早苗「はーい！じゃあ呼んできまーす！」

第十九話 美奈子の誕生日!! ?

早苗「美奈子呼んできましたあ！」

美奈子「何ですか？」

早苗「ちよつと待つて下さいね〜！ここの中に入りますから。あつ！美奈子は見えないようにあつち観といて下さいよ。あそこの、ドアら辺です！」

美奈子「えっ？あつはい。分かりました？」

早苗「神奈子様達！クラッカー準備出来ましたか？」

神奈子「うん！」

諏訪子「OKだよ！」

早苗「入つてきて下さ〜い！」

美奈子「はーい！」ガチャ

全員「ハッピーバースデー!! ?」

美奈子「えっ？」

早苗「美奈子！欲しいかと思つて前日に買いました！寺子屋のバックです！これまで、ずっと変な柄のリユックサクでしたもんね！行きやすくなりますよ〜!! ?」

美奈子「えっ?」(へ、変な柄?あのリュックサック私、気に入ってたのに…………。変な柄変な柄…………。)

神奈子「私も買ったよ!はいプレゼント!!?中には、魚入ってるよ!腐らないから、非常食にも出来るし、小さくカットする線もついてるから、この袋に入れたりして、寺子屋でお腹空いた時に食べれるよ!それにこれ、美奈子が大好きな鮭だよ!新鮮100パーセント!」

美奈子「ありがとうございます!!?鮭大好き何ですよ私!!?」(でもこれどこで買ったんでしょう…………。こんなの作ってたところありましたっけ?)

諏訪子「私からのプレゼントは、これだよ!それだよ!あれだよ!うーんと…………。名前が…………。出てこない…………。」

美奈子「?どれですかあ?」

諏訪子「あっそうだ!回転寿司セットだよ!ちよつとこれ読みにくくてね…………。回転寿司セットって読めるんだけど…………。何でだろ?」

美奈子「私も、回転寿司食べたいですけど…………。あの、普通に回転寿司セットって書いてありますし、私、回転寿司セット欲しいなんて一回も言ったことないんですけど?」

諏訪子「あれれ?どどどという事かなあ?私美奈子が言ってたところ聞いたんだけど

? 私の、聞き間違いだつて言うの?」

早苗「すいません諏訪子様……………。回転寿司セット欲しいつて言ったの私です……………」

諏訪子「ええ!??聞き間違いだつた!??えー美奈子の声だと思つただけど…………。聞き間違いだつたんだ……………」

神奈子「うん! ずっと待つてたんだけど、ちよつと電気消すね! 美奈子にろうそく吹き掛けてもらうから!」

早苗「はい! いやあ秘密兵器(魚ケーキ)出しますね!」

美奈子「ぎやあつ!??電気がいきなり消えましたよ!??」

早苗「はい! 置きますね〜!」

全員「じやあ! ハッピーバースデートウユウ、ハッピーバースデートウユウ! ハッピーバースデーア美奈子! ハッピーバースデートウユウ! ーオの誕生日おめでとう!!?」

美奈子「ありがとうございます〜! まさか祝つてもらえる何て思つてもいけませんでした! だから夜、ミステリアさんのお店でも行こうかな〜つて思つてたところですよ! 祝つてもらいましたから、行かな「行きましよう! 私のおごりでいいですよ! 私、いつからでも行けますんで、夜行きましよう! ミステリアさんのお店に! レッツゴーですよ!」

あつ分かりました……。。
行きましょう！」

第二十話 二時間目

慧音「じゃあ二時間目始めますよ！」

チルノ「分かった！」

大妖精「チルノちゃん！先生だから分かりましただよ！」

チルノ「えく！分かりましたー」

何かチルノさんがめっちゃくちや嫌そうな顔してるんですけど……？ちよつと大妖精さんも無理矢理では……？

慧音「はい。二時間目は、算数です」

チルノ「ふっ！あたいの得意授業はさんしゅう……ごほん！算数だ！算数であたいに勝てる奴はいない！」

美奈子「十÷二＝？」

チルノ「あつあつ……」
「チルノちゃん勝てる奴何ていないっ！何て言ってたのに、答えれないんだって！あははは！」
むうっ！分かる！分かるから！」

ミスチー「じゃあ何く？」

チルノ「五だあ!!？」
（あたいは誰にも負けないんだあつ！でも多分間違っ

る……………」

美奈子「えっ?!? あ、合ってる? 凄いじゃないですか! 正解ですよ!」

チルノ「えっ「チルノちゃん! さつきはあんな事言つてごめんね! 私、チルノちゃんの事思い間違つてたみたい! これからは何て呼べば良い?」えっ? じゃ、じゃあ! 天才チルノ様! 「分かつた! 天才チルノ様だね!」うん! そうだ! あたいは天才だ!!?」

美奈子「凄い……………」

でも天才までは行かないと思いますが……………。

慧音「……………」

チルノ「はっはっはー! やっぱりあたいは最強で、天才だあ〜!!? どーだ!」

大妖精「いやこれぐらい……………」

美奈子「これぐらい?!? 分かるんですか?」

大妖精「あっはいうん……………。分かります……………」(ごめんね! チルノちゃん……………)

ん……………! しようがないんだ……………)

慧音「……………」

全員「あつ」

慧音先生めっちゃくちやめっちゃくちや怒ってる…………… やばい! と、みんな思い

ました……………。私も思いますし……………。

慧音「早く黙れやー!!」ドーン!!

チルノ「ぎやあああ!」

大妖精「チルノちゃん!?」

あつ、チルノさんが、慧音先生の超強い頭突きが当たった……………。

チルノ「く?」クラクラクラ

慧音「ふうふうふう……………」

慧音「あれ私何かしましたか? まあまず授業しま…………… ってあれ? チルノさん、何

で頭から血が出てるんですか?」

慧音先生がしたんですよねえ……………。それに、覚えてないんですかね? その頭突

きした時の記憶、頭突きした反動で、忘れちゃったんですか?」

チルノ「あれれれれ?」

大妖精「チルノちゃん!」

慧音「まあ、授業続けますよー。じゃあ123ページ開いて下さい。おさらいですよ。

二×五?」

全員「十〜!」

慧音「はいそうです。二五十ですね。さつき美奈子さんが出してた問題は、十÷二

? でしたよね」

美奈子「あつ、そうです」

慧音「で、それを簡単に説明すると、二×何十になりますか? 「五です!」 そうですよね? だから答えは五、という風に答えれば良いですね」

チルノ「うう………。そうか分かったけど痛い………」

大妖精「チルノちゃん? 大丈夫? 大丈夫じゃないなら、保健室行く?」

チルノ「え? そりゃあ大丈夫じゃないけ「チルノちゃん最強なのに、痛い何て言う訳ないよねー」「そうだよねー。最強のチルノちゃんだもんねー」うぐっ!」

大妖精「大丈夫?」

チルノ「行かない! 痛くなんかないもん!」

大妖精「じゃあ行かなくて大丈夫? 本当に大丈夫なの? 顔色悪いよ?」

チルノ「うん! ちよつとお腹空き過ぎてね! 朝寝坊しちゃつて、全然食べれなかつ「うるさいですよ! そこ!」はーい。ごめんさーい………」

慧音「あ、いつの間にか、もう時間でした。じゃあ二時間目終わりまーす」

第二十一話 三時間目

慧音「では、三時間目の授業は、音楽です。リコーダーと、音楽の教科書を出してください。今日のところは、八十二ページです」

チルノ「ん？ちよつと聞いてなかった………。大ちゃん！今何ページっていった？」

大妖精「あつ八じゆ「八十二ページです!!?いい加減ちゃんと聞いてて下さい！ここに来てから、五十二回目ですよ！もうそろそろ怒りますよ」……。」

慧音「じゃ、美奈子さん、ここのとこやって下さい」

美奈子「はい！ドレーミーファーミーレードーミーファーソーラーソーファーミー。ドードードードードレレミミアミアミー、レー、ドー(全部リコーダーの音)」
慧音「はい！上手ですね！じゃあ八じ「あたかもやる！」ゆう三ページ開いて下さい」

チルノ「いやだから！さっきの、カエルの何とか！あたかもやる！」

慧音「はあー、本当にやるんですか？」

チルノ「やる！もう自信满满だぞ！あたかも、さっきの奴より出来るもんね！」

慧音「じゃあやって下さい」

でもですね。何か私と、チルノさんで、大分態度違くありません？ まあ、私の勘違いでしょうね、はい。

チルノ「シュープシュープツッシュュシユシユ！プシユプシユプシユプシユ、プーシユシユ（音程が外れた、リコーダーの音）！どーだ！さっきの奴より上手いだろ！」

リグル「残念！美奈子の方が上手かった！」

ミスチー「私も出来るよ！」

ルーミア「あれーなのだー？私が全然出来ないのかー？」

慧音「時間無いのでやめて下さい。で、さっきも言いかけてましたが、八十三ページ開いて下さい」

全員「はーい!!？」

ミスチー「でもやりたかったなあ〜！私もやりたかったなあ〜？やらせてくれないかなー？あれ？やらせてくれない？というか私、何で音楽してるんだ？」

リグル「ミスチー！寺子屋寺子屋！授業だよ！また慧音先生の強力頭突きが来ることになっちゃうって！」

ミスチー「そうだったっけ？」

ルーミア「すっかり忘れてるのー」

………忘れん坊ですね。普通に忘れてますもん。何か、はい………。凄いですね。

慧音「で、ここ、ところをチルノさん、ルーミアさん、リグルさんと、順番順番に、言ってる下さい」

チルノ「えっと、ドミレソドレレレレレレソツソド」

慧音「はい完全に違いました。もう全部違いました。じゃあ次ルーミアさんやってみて下さい」

ルーミア「はいいなのだー。ドドレレミファファミーレード」

慧音「その曲はカエルの合唱の最後ですね。じゃあ次リグルさんやってみてください」

リグル「はい！ちようちよくちようちよく♪」

慧音「リグルさん、それは、ちようちよですがやめて下さい。歌って下さいとは言っていないですよ？ここを音符で読んで下さい」

リグル「分かりません！」

美奈子「先生ー！もうそろそろ時間が」

慧音「そうですね。じゃあ三時間目終わります」

第二十二話

四時間目

慧音「四時間目の授業を始めます。四時間目は、理科です」

リグル「せんせー！虫ですか？」

え？ 虫ですかあ……。そんな好きじゃないんですね。

慧音「……。虫じゃないです」

良かった〜！ 虫じゃありませんでしたよ！もしかして、早苗さんの奇跡の力!?!?

ルーミア「違ったのか〜」

リグル「うわああん！虫やりたかったよお〜！」

美奈子「……。じゃあ何ですか？」

みんなが聞かないから、私が聞いちゃいましたよ。

慧音「あ……。はい。今日は、実験です。実験で、魔理沙さん呼びました」（私は

呼んでませんけどね。ここの一歩偉い人が……）」

魔理沙「霧雨魔理沙だぜ！今日は、理科の……。えーつと何だったっけだぜ？」

慧音「はあー。理科の実験です！」

あ……。魔理沙さん間違えてる……。というか覚えてませんよね？ あれ。私

聞こえるんですよ。

魔理沙「ゴホン！私は霧雨魔理沙だぜ！」

ミスチー「聞いた！」

魔理沙「むっ！でもちゃんと聞くんだぜ！もしかしたら、もしかしたら、聞いてない人がいるかもしれないんだぜ！今日は理科の実験を教えに来たぜ！ちゃんとやるからな！」

チルノ「あつ黄色髪の、あたいの強いけどあたひよりは強くない子分じゃないか！久し振りだな！」

大妖精「チルノちゃん！」

魔理沙「何だつて？マスパ（マスタースパーク）撃つていいんだぜ？」

チルノ「何だそれ！」

あ……… 慧音先生怒つて来ましたよ………？顔が……… 顔が………

大妖精「チルノちゃん！チルノちゃん！先生先生！頭突きされて良いの？」

チルノ「!!？」ビクウ

チルノ「」ブンブン

あ。チルノさん、頭を左右に振つて、嫌な感じな事を知らせてますね。

美奈子「魔理沙さん。授業！」

慧音「そうそう。授業して下さい」

魔理沙「そうだったな！喧嘩は後だぜ！まず授業をするんだぜ！じゃあまず、赤い粘土と青い粘土で何色になったかだぜ？」

ルーミア「黄色なのだー」

チルノ「分かった！青だ！」

魔理沙「つまり、青が勝ったって事かだぜ？」

??「そういえば魔理沙先生って何で『だぜ』って、付けてるんだろーね？」

??「だめだよ。魔理沙先生もしかしたら気にしてるかもしれないじゃん」

魔理沙「ん？そこ、さつきからコソコソと、どうしたんだぜ？」

??「えっ？」

??「ごめんなさい……………だからマスタースパーク撃たないで下さい……………」

魔理沙「撃たないぜ？だから、さつきの問題、受けるんだぜ！」

??「はい。分かりました。紫です」

あつ。さつきの紫って、ゆかりさんの事じゃないですからね？ むらさきの方ですよ。

魔理沙「おー！合ってるんだぜ！じゃあ次！黄色の粘土と、赤い粘「橙色です」早っ

！」

あっさっきのもの、オレンジの方ですからね？　ちえんさんの事じゃありませんからね？　何か、説明するの大変ですね……………。

魔理沙「あっ！」

美奈子「？」

魔理沙「そういえば、霊夢と遊ぶ（弾幕ごっこで）約束してたんだぜ！　じゃーな！　またやろー何だぜー！」

慧音「……………」

魔理沙さんが飛んでつちやつた。

チルノ「ムーッ！　金髪め！　後でやるって言ったのに！」

慧音「まあ終わりまーす」

第二十三話

昼

慧音「お弁当の時間です。皆さんお弁当を出して下さい」

わーい！ お弁当の時間です！ まあ、私とお弁当は、自作何ですけどね……。みんなどうしてるんでしょうね？

慧音「まあ、今日は美奈子さんもいますし、お弁当はどこで食べても良いですよ。でも、寺子屋の中ですだからね？ その、外には出ては行けません」

全員「はーい！」

チルノ「大ちゃん！ どうする？ どこで食べる？」

大妖精「うーん。どこでも良いよ！ あつ美奈子さんも一緒に食べますか？」

美奈子「あつ美奈子で良いです。それと、一緒に食べましょうか」

大妖精「みつ美奈子ちゃん？」

あー！ 何か美奈子ちゃんって呼ばれるの意外と初めてじゃないですか？

チルノ「どこで食べる？ どこで食べる？ あつ！ ルーミア達ー！一緒に食べよー！
ルーミア「わはー。一緒に食べるのかー」

リグル「良いぞ！ 私の弁当をチルノにも見てもらいたかったし！」

ミスチー「私も食べる〜」

ルーミア「どこで食べるのかー」

チルノ「決めてない！」

リグル「え！決めてない!?？」

ミスチー「お腹すいたー。早く食べよ」

美奈子「そうですね。まあ早く決めちゃいましょうか」

確かに、お腹空きますよね。もう、十二時半ですし、当然空いてますよね。

リグル「早く決めてくれー！お腹すいたー」

大妖精「そ、そうだよね！」

チルノ「あつそうだな！あそこの寺子屋の庭の、小さい桜？みたいなもの下で食べよ！弁当がもつとおいしくなりそ！」

大妖精「そうだね」

美奈子「じゃ、行きましょう」

チルノ「着いたぞー！みんな弁当箱を開けるのだ！みんな、食べる準備は良いかー！」

リグル「良い！」

ミスチー「お〜！」

大妖精「お、おー？」

チルノ「えっと、み、み、み……………美奈子！用意は良いか！」

美奈子「良いですよ」

チルノ「じゃあ、食べるぞ！」バクバク

大妖精「あ……………」

チルノ「モシヤ？大ちゃん食べないのか？ムシヤムシヤ」

大妖精「いや、チルノちゃん、食べ始める時は、いただきます、だよ」

チルノ「？いただきます？」

ルーミア「いただきますなのカー」

リグル「ううっ。虫のみんな……………肉のみんな……………ありがとう！！？これから

も……………これからも、私の、お腹で生きててよ！じゃ、じゃあ……………いただきます

すうっ！」

美奈子「いや、そこまで情熱に言わなくても……………」

ミスチー「に、肉のみんな!!？」ワタシノコト!？」

美奈子「ま、まあ私も食べます」

チルノ「つて！何だこれは！さ、魚弁当じゃないか！あ、あたいのは……………ただのお

にぎりなの……………」

第二十四話

五時間目

慧音「今から五時間目始めます」

そういえば、いつつもこんな感じで始まりますよね。今から〇時間目始めます。ぐらしいと言いませんね。

慧音「五時間目と六時間目は、外を探検しましょう。町の皆さんに、挨拶とかもしたいですね」

チルノ「やったあー！」

ルーミア「やったあーなのだー」

ミスチー「やったあー！売れる〜！」

美奈子「え？売れるって何がですか？」

ミスチー「そりゃーあれしかないでしょ！あれ？何の事言ってたんだっけ？えーつと………」

リグル「分かった！焼き鳥にされる〜！やったあー！でしょ」

ミスチー「焼き鳥にしないでえー！私焼き鳥じゃないよ！八目鰻の方が……ってあつ。八目鰻だ！八目鰻が売れる」

慧音「売らないで下さい。今は売る時間ではありません」
チルノ「じゃー行くぞー！というかどこに行くんだー？」

慧音「町」

何か説明が雑ですね……。

ルーミア「食べるのかー？」

慧音「人間は食べないで下さい」

ルーミア「はーいなのだー」

慧音「じゃあ行きましょう」

慧音「まずはこの人達です」

ルナサ「こんにちは。プリズムリバー四姉妹の、音楽会です」
ええええ^{!!}?あの時の！凄い人達ですか！

ルナサ「皆さん名前は知ってますか？」

全員「知ってます」

ルナサ「じゃあ今日は、一曲やりたいと思います。みんな」

メルラン「おっけーだよー！」

リリカ「楽器の準備も出来たよ」

キャリア「私も出来たよ」

ルナサ「じゃあ」

ルナサ・メルラン・リリカ・キャリア「ありがとうございます」

チルノ「ふっ！普通の人にしては上出来だなあー!!? いった!」

慧音「チルノさんが普通の人ですよ。皆さんありがとうございます！また聞きに来ます」

ルナサ「また来てくださいなー」

慧音「次はこの人達です」

??「ばあっ! : : : : つて全然反応しないじゃん」

慧音「この人達はやらなくても良いですね。では」

小傘「ちよつとー!!? 私多々良小傘だからー! 覚えといてよ」

慧音「次はえーつと。いないですね。妖精について話してくれる人がここにいると

聞いたんですが」

? 誰もいませんねってあつ!

美奈子「先生！あその木の裏にいます！」

慧音「え？あそこ誰もいませんよ？」

美奈子「ちよつと行きます。あの一誰ですか？」

??「で、ここを攻めるのよ。そしたらここをこう出来るでしょ？」

美奈子「あの一」

??「ぎやあああ！な、何で見えるのよ！というかこれ何度目よ！何回これ失敗するのよ！というかルナ！音消したの？」

ルナ「ちゃんと消してるわよ！じゃあサニーは？」

サニー「やったって！スターは感じなかったの？言ってくれば良かったのに！」

スター「わ、私も分かんなかったわ！」

美奈子「とにかくこつち来てく……って、貴方達お母さんをこけさせた（第二話参照）人じゃありませんか？」

サニー「うっ」ギクツ

サニー「ち、違うよ！」

美奈子「とにかくこつち来て下さい」

スター「ぎゃー！」

ルナ「もう！サニーのせいで私達まで！」

美奈子「この人達だと思えます」

慧音「じゃあ説明してもらいましょようか」

サニー「えっ！」（私達がこっそり喋ってて、何かやった事の説明!??）

サニー「むっ無理よ！逃げるー！」

スター「あっ！ちよつと待ちなさいよー！」

ルナ「いやちよつ！二人とも速いっ」

慧音「いなくなっちやいましたね。他のところ行きましょよう」

第二十五話

六時間目

慧音「えつと、ちよつと人探しますね。本当は、妖精の事を教えてくれる人達に、他のところも案内して貰おうと思つて予定立ててません」

霊夢「はあー。今日どーしよーかしら」

慧音「あ！霊夢さん良いところに！ちよつと町を案内して貰いたいですよ。後で……… あげますから」

ん？ 先生の声が小さ過ぎて、というか、コソコソ声で聞こえませんでしたね？ 何て言つてゐるんですよ。

霊夢「良いわよ。後でちゃんとやりなさいよ」

慧音「みなさん！霊夢さんが案内してくれるそうです！」

霊夢「はぐれないように来なさい。今から博麗神社に行くわ。みんな当然飛べるわよね？」

妖怪とか以外全員「？」

あ、私は飛ばますよ。

霊夢「え？飛べない？どうしようかしら。階段登るのきついわよ？まあ、飛べない人

はそれが悪いんだし、階段上がって来なさい。他のみんなは飛んで来て」

美奈子「はい！」

霊夢「あつちで待つてるわ。じゃあ頑張つて」

慧音「私は行けない人を手伝いましようか」

美奈子「あーなんか久し振りに霊夢さんと、飛んだ気がしますね」

霊夢「……何よ。アンタ寺子屋にいたの？」

美奈子「はい。今日だけですけどね。特別に來たみたいな感じですね」

霊夢「ふうん。とにかく着いたわよ。ここに座つてなさい」

チルノ「はあはあつ！二人とも速いぞ！もつと待つてよ！」

大妖精「し、仕方ないよ！この二人だから……」

リグル「そう言つてそつちも速い！」

ミスチー「霊夢さくん。八目鰻食べます？連れてきてくれたから一本ただ。それに、

一本百錢が、五十錢ですよ！」

霊夢「ふーん。じゃあ一本と、後10本で。はい五百錢」

ミスチー「ありがとうございます！毎度ありいー」

靈夢「ムシヤムシヤ」

慧音「ミースーティーアーサーン？何でここで売ってるんですか？売るなって言いましたよねー？」

ミスチー「えー？だつて靈夢さん欲しいかなーって思ったからー」

慧音「こつち来て下さい！」

ミスチー「ああああー」

リグル「ミスチー！ミスチーの事は一生忘れないからね！また会おうー！」

リグルさん何言ってるんですか？まあ、ミステイアさんが、突っ込んでくれるでしょう。

ミスチー「リグルー！リグルの事は一生忘れないよー！また会おうねー！」

えー。

靈夢「賽銭入れなさい」

美奈子「はい」ポトツ

靈夢「ん？！今何円入れたー？」ガサゴソガサゴソ

靈夢「！！？外の一万円札？！！？美奈子！やっぱり貴方は良い人ね！ちよつと待つてて

！羊羹持つてくる！」

え？ 一万円札で？ 外の世界だったら、一家族に一枚は絶対ありますよ？

霊夢「はい羊羹！」

美奈子「あ、ありがとうございます？」

チルノ「おい！あたいのはないのか！」

霊夢「無い」

チルノ「うわああ！何で何だあ！」

慧音「すいませんね。ありがとうございます。もうそろそろ時間なので、帰ります。はい。賽銭入れ「良いわ！入れなくても」え？でも「良いのよ」ありがとうございます！じゃあまた来ますねー！」

霊夢「さよーならー！」

第二十六話

萃夢異変

早苗「ふむふむ……………分かりました。魔理沙さん、『明日宴会があるらしいから来たかったらこい！私は行くぜ！』という事ですわね？」

魔理沙「そうだぜ！早苗。やっぱりお前は察しが良いなー！」ウンウン

私は明日から宴会に行くなんて意味がわからないです。だって宴会って異変で疲れた後にワイワイとやるもんじゃ無いんですか？ 私の勘違いか何ですか？ それになんか嫌な予感がしますよ……………

一日目

く博麗神社く

神奈子「きよ、今日こそ酒を飲んでやるぞ！…………何か分かんないけど昔の失敗を思い出す……………」
「バァ……………」ズーン

早苗「も、もう止めれません。す、諏訪子様ー。神奈子様を止めて下さいね……………」
「チーン

諏訪子「さ、早苗ー！寝ちゃダメー！永遠の眠りにつく事になっちゃうー！」シクシク

早苗「スピー。神奈子サマー！スピー。トランプはこうやって。スピー」
 諏訪子「本当に眠っちゃった」

美奈子「……………」

二日目

く博麗神社く

神奈子「やった！今日は美奈子しかついてこなかったから、飲める！」

美奈子「えっ！もしかして……………」

神奈子「美奈子ー！飲めー！」

美奈子「ゴプツ！」ゴクゴク

美奈子「ふにやー」クラクラ

三日目

く博麗神社く

何かが違いますね。

神奈子「ねえ美奈子。昨日さー！お酒飲んでからさーすぐに眠ったからお酒弱いの

？」

美奈子「え？あ、はい。前一度お母さんに飲まされてすぐに酔ってしまつてそれから飲まなく……」

神奈子「ふむふむっ！全然分かんない！えへっ」

え？ どういう事ですか。

神奈子「とうかさ、宴会楽しいよね！何日も何日も続いてね」

あ！ 普通、何日も何日も続けて宴会をする事がないですよ！なのに、何で何日も……。

神奈子「ん？どうかしたの？」

美奈子「あ、いえ。何も」

と言いながら、実は博麗神社の、屋根の所らへんに妖気を感じるんですよ。見てみましょうかね。

美奈子「ふうっ。誰かいるんですかー？つてえ？」

煙が……。というか、煙なのでしょう。あれは。

美奈子「ちよつと出てきて下さい」

?? 「ん？気付かれてた〜？ま、誰？」

美奈子「え？洩矢美奈子です」

というか、煙になってた人が、角が頭に生えてますよ？ どういう事ですか？

萃香「へー！あそこの守谷のでしょ？で、私は伊吹萃香」

美奈子「萃香さん。もしかしてこれの犯人です？」

萃香「あつばれてた？ドーでも良いけど！で、気付いてても霊夢に言わないでね？霊夢に言われたいから」

美奈子「……分かりました。じゃ何でやったんですか？」

萃香「宴会が好きだから！」

美奈子「じゃあ何で、宴会には出てなかったんですか？」

萃香「え？出たら怒られるし。じゃあとにかく言わないでよ？じゃ帰って帰って」

美奈子「何ですか？」

萃香「美奈子だって、全然帰って来なかったら嫌でしょ？」

美奈子「まあそうですけど。じゃあ」

神奈子「美奈子お！何してたの！ずっと探してたんだけど。いないって言ったら、奇跡的に早苗と諏訪子が来ても見つかなかったんだよ」

諏訪子「そうだよ！ムシヤムシヤ…… お腹空いつ…… 美奈子の事心配してたんだからね！」

美奈子「お腹空いたって言おうとしてませんでした？」

私にはそう聞こえたんですけど。

諏訪子「うっ……。言ってないもん！もう！」

霊夢「はあ。あいつか」

美奈子「？どうしたんですか？」

霊夢「ちよつと異変だったみたいだね」

あ……。萃香さん、私が言わないって言った直後にばれましたね。

第二十七話

永夜異変①

美奈子「月が綺麗ですね」

早苗「満月を見ると月見団子が食べたくありませんね」

諏訪子「そう言うかと思って作っておいたんだ！」

神奈子「おっ！準備万端だな！」

美奈子「へー！綺麗に丸になってますね」

早苗「美味しそうですね……。やっぱり月見団子は美味しそうですね！そんな食べないですし」

神奈子「むっ!!??前のやつよりも百倍美味しくなってる?…… 諏訪子。誰かとやっただろ」

諏訪子「なな何で?わっ私が作ったよ!!??」

神奈子「その慌てっぷりに、一年でこんなに美味しくなるわけないだろうっ！」

美奈子「何か名探偵になってませんか？」

早苗「たっ確かに！一年でこんなに美味しくなるわけないですねっ！」

美奈子「いや信じないで下さいよ！」

どう言う事ですか？ みなさん何かのごっこしてます？
諏訪子「ううっ……。。ごめんなさい！じ、実は……」

美奈子に手伝って貰ったんだあつ！」

神奈子「な、ななななんていうことだ！」

早苗「そそそれは、ただ大変ですうっ！」

美奈子「そこまで驚かなくても良いでしょう！？それに、私手伝ってませんよ？」

神奈子「なっ！」

早苗「じゃあ何で諏訪子様は美奈子に手伝って貰ったんだあつ！って言ったんですか

？」

美奈子「そこまでリアクション真似しなくても……」

諏訪子「ごおめえんっ！私、実は……」

自分で作ってたんだあつ！」

神奈子「な、ななななんていうことだ！」

早苗「そそそれは、ただ大変ですうっ！」

美奈子「そこまで驚かなくても……」

五時間後

美奈子「やっぱり」

神奈子「ふにやく。美奈子も酒飲もく」

早苗「スースー」

もう早苗さんも寝ちやつてますよ。

二時間後

美奈子「？」

美奈子以外全員「すびーすびー」

ずっと夜が続いてますよね？ 八時間前ぐらいから、夜なんですよ？ 何ですかね

？

美奈子「うーん……。やっぱり霊夢さんのとこ行きましようか」

く博麗神社く

美奈子「霊夢さんいますかー？つてここに紙が……。えつと？」

霊夢は異変解決に行っています。用がある方は、賽銭を入れて下さい。また、私が行っている所に行きたい方は、賽銭一元を入れ、霊夢さんの所に行きたいです。連れて行ってください。〃と、行ってください。そしたら私がいる所に行けると思っています。

博麗神社 第二十五代博麗霊夢

って、霊夢さんって二十五代だったんですか?!? まあ、それは置いて霊夢さんのところに行きますか」

えっと、霊夢さんの所に行きたいです。連れて行ってください。でしたっけ？ 言ってみましょうか。

美奈子「賽銭一円を入れて……」チャリーン

美奈子「霊夢さんの所に行きたいです。連れて行ってください」

うわっ?!? 迷いの竹林ですか？

霊夢「やつぱり来たわね」

美奈子「わっ！ 霊夢さん？」

霊夢「はあ。早苗にも来てもらえ……」

? 霊夢さんがいきなり喋らなくなりましたよ？ 何かあったんでしょうかね？

霊夢「ちよつと。早苗出てくるならちゃんとしてきなさいよ」

美奈子「え？」

早苗さんがここに？

早苗「うう……。奇跡の力で隠れられてると思ったのに」

霊夢「普通に見えてたわ」

早苗「えーん！」

魔理沙「だーめなんだー、だめなんだー。せーんせいと言っちゃおう♪早苗が泣いてるぜ〜？なーかせーちやだめなんだー」

美奈子「わあっ!!？」ビツクウ

霊夢「むっ！というか、魔理沙、出てくるなら急に話に入らないでくれる？」

まあ確かにそうですね。私もびつくりしましたし……。

魔理沙「はいはいだぜ。でもそんな話をする前に、行くんじゃないかだぜ？」

霊夢「そうですね」

第二十八話

永夜異変②

魔理沙 「勝負だぜ美奈子、霊夢！」

早苗 「私の名前がありませんよ？」

霊夢 「何が？」

美奈子 「勝負ですか？どんな？」

魔理沙 「ふっふっふ。それはなー！凄いんだぜ！めっちゃくちや凄いんだぜ！な？凄
いんだぜ？」

美奈子 「早く言つてください」

魔理沙 「うう……。私と早苗チーム、霊夢と美奈子チームで分かれて、どっちが先
に異変の主権者を倒すか！という勝負だぜ！」

霊夢 「へえ。でも、私は勘があるけどそつちは無いじゃない？」

美奈子 「霊夢さん。早苗さん早苗さん」

早苗 「れ、霊夢さん……。私の能力さえ忘れたんですか？」プルプル……

「あーあ。霊夢さんが早苗さんいじめてますね！早苗さんの能力は、奇跡を起こす
程度の能力」ですよ！

霊夢「あー。確かに奇跡を何とかかんとかだっけ？」

早苗「わあーん！」

魔理沙「おい！酷いぞ霊夢！勝負をする前に精神攻撃するなんて！」

霊夢「はいはい。すいませんでした。とにかく勝負をするんじゃないやなかつたの？」

美奈子「そうですよ。早くやった方が良いじゃないですか？」

魔理沙「ま、そうだな。じゃ霊夢はそちな！私達はこつちへ行く！じゃー！」

美奈子「また会いましょう！迷子にならないで下さいね」

霊夢「はあ。じゃあ美奈子行くわよ」

美奈子「はい」

でも、これってあつちの方が有利じゃないですか？ 奇跡ですよ？ でもこつちは霊

夢さんの勘しか……。あつ！私の能力で、地図を出せば！

美奈子「えーつと？ここから……」

霊夢「どうしたのよ。行くわよ？」

美奈子「あつ！ちよつと待って下さい」ガサゴソガサゴソ

あー。もうすぐ見つかりそうなんですけど……。ん？手に地図っぽいものが……。

美奈子「あつ！霊夢さん地図出てきました！どつちに何があるかも書いてあります！

私達の丸はこの黒丸です」

霊夢「じゃあこの紫丸と、灰色丸っぽいのは？」

美奈子「あつそれは異変の主権者です。あつ動いてますよね？これは主権者が動いて
いるって事ですわね」

霊夢「へえ！じゃあこっちに行けば良いのね？」

美奈子「はい！こっちに行けば倒せると思います！」

これでこっちの方が勝つ確率が高いんじゃないですか？ 大分この地図は役に立
たと思いますよ！

霊夢「じゃあこっちに何か大きそうな建物があるわ。主権者もここにいますか？
し、まずこっちに行くわ」

美奈子「あー、良いですわね」

ブーブー!!？

霊夢「!?？」サツ！

美奈子「あー大丈夫ですよ。これは敵の声なのでありませんので」

霊夢「はあ。敵じゃないって言うなら何なのよ。このうるさいうるさい音は」

美奈子「この音は、まあ確かにうるさいですけど、この道が危ないよーって言う合図
ですわね。ここに、赤いがありますよね？」

霊夢「あるわね。何？これ」

美奈子「木の棒木の棒…… あっ！ありました！この木の棒でこの地図で赤いとこ

ろを触るとー？」

ボコッ！

霊夢「赤いところに穴が開いたわねって…… 下棘じゃないの！」

美奈子「はい。これは多分罨ですね。私達を返すためのものでしょう」

まあ、罨以外ないですけどね。というか、罨がこんな風になったら赤いやつなくなる

かと思うんですけどね……？

霊夢「はあ。一体誰があるのよって！危ないわね！」

美奈子「あつやつぱり罨がまだありましたね」

霊夢「あるって分かってるなら言いなさいよ！」

美奈子「言おうとする前に霊夢さんが罨にかかっちゃったんですよ。かかる直前に分

かったんですって」

霊夢「まあとにかく主催者の所に行くわよ。こうノロノロしている間にも魔理沙達も

主催者も色々やってるだろうし」

美奈子「そうですね。早く行っておきましょうか」

まあ魔理沙さん達に途中で会わなければ良いんですが……。

第二十九話

永夜異変③

靈夢「で、何この大きい建物は!!?」

美奈子「この地図に写ってるこれですよ」

あれ? 私言いませんでしたっけ?

靈夢「いやちよつとぼけただけよ」

ぼけただけですかく!なあってんだ!

美奈子「じゃあ中に入りますか?」

靈夢「そうね」ガチャー

美奈子「まずは、畏は…… ありませんよ!普通に入っても大丈夫です」

靈夢「じゃあ入るわ」

美奈子「へー。意外と綺麗ですね。誰かは住んでますね」

靈夢「…… もしかして、美奈子ここに住んでる人見たことない?」

美奈子「いや…… まあ話はしたことないみたいな……、で、でも名前とかは大体

覚えてますよ!」

靈夢「じゃ言ってみて」

美奈子「えつと、永琳えいりんさん、輝夜かぐやさん、てゐいさん、鈴仙れいせん・優曇華院うとうんげい・イナバいなばさんです。優曇華さんはどこが名前なんでしょうか？」

霊夢「知らん。後妹紅は？」

美奈子「もう知ってるんです」

霊夢「へえ。でも大分知ってるじゃない」（私の知らない名前まで……）

美奈子「幻想郷に住んでいる人は大体全員覚ええました！」

私が一晩かけて頑張つて覚えたんです！ 一々言うのも大変じゃないですか。

美奈子「つて、何か凄い部屋がありますよ？開けてみましょう」

霊夢「そうね。んっ！……この戸全然開かないわよ！」

美奈子「え？じゃあ私も開けてみます。よいしょっ」ガラッ

霊夢「普通に開いたわよ……」（力勝負では負けるわね、これは……）

美奈子「うわあっ！凄く長い廊下がありますよ！」

霊夢「今魔理沙はどこにいるのかしら」

??「貴方達誰ウサ！」

霊夢「アンタこそ誰よ」

てゐ「私はてゐウサ！ここの迷いの竹林の兎の長老ウサ！」

「靈夢」というか私の事忘れたの？ あった事あるわよ？ 話してはないけど」

「え？ そうだったっけウサ？ 私の凄い記憶でもぜんぜん覚えてないウサよ？」
何か今回の異変は全然誰が何してるとか分かりませんねえ。 ちよつと情報を聞きましようか。

美奈子「あのー」

「てる「誰ウサ？」

美奈子「ちよつと情報を聞きたいんですけど。 ちよつと教えて貰ってもいいですか？」

「てる「んー。 それはちよつとウサ……」

美奈子「教えてくれないと退治しますよ！」

「てる「わ、分かった分かったつてばウサ！ か、構えないでウサよ！…… じゃあ教え

るウサ。 まず、この異変をやったのは、八意やじいころ 永琳と、蓬萊山ほうらいさん 輝夜ウサ。 実は、輝夜

は月人ウサ。 永琳はそうっっちゃやそうだけど、実は違うらしいとかどうとからしいウサ。

で、その月で、輝夜は、永琳から盗ん…… ごほんごほん！ はあ…… 貰った、蓬萊

薬を飲んだウサ。 でも、それは月では罪だったらしくて、通報されたウサ。 そして

輝夜は、通報されたため、月から逃げたウサ。 輝夜が逃げたところは、丁度地球だったんだウサ。 まあ他に逃げるところ何てそんなないかウサ。 で、そしたらとても偶然に、

この幻想郷の迷いの竹林だったんだウサ！そして、うーん……あの時から何年経ったんだろうウサ……。千……。行ってるか行つてないかウサ……。ま、まあ、それぐらい前の話なんだウサ。で、今になるウサ。それで、まだ、月の奴ら達に、追われている輝夜は……。あ、ここにまだ住んでるウサよ？月に帰ったりはしたくないらしいぞうだウサ。で追われている輝夜は、永琳に、助けを言つたウサ。『たーすけてくれーい！』……。とは言つてないウサよ？つてそんなに、睨まないでウサー！そしたら永琳は、月を偽物と本物に入れ替えたんだウサ。そしたら、月の奴ら達が、ここに来れないって思つて、偽物と本物を入れ替えたウサ。だから、私の迷いの竹林達は、異変を起こしたウサ」

美奈子「うーん……。もうそろそろ良いですね！」

大分聞きましたね。ふっふっふっ……。これからどうなるんですかねえ……

！

第三十話 永夜異変④

てゐ「え？ウサ？どうゆうことウサ？」

美奈子「じゃ、霊夢さん！行かなきゃいけませんよー！」

霊夢「そうね。もうそろそろ……」

美奈子「じゃあ、てゐさん！情報を教えてくれてありがとうございました！じゃ、頑張って下さい」タツタツター

霊夢「じゃ、私も」テツテツテ

てゐ「え？」

ドーン！

てゐ「ええっ！に、逃げるウサ！」

てゐ「うわあああっ！」

美奈子「ふう。霊夢さん、大丈夫ですかー？」

霊夢「それにしても、大分危ない事するわね」

実は皆さん！あの「え？じゃあ私も開けてみます。よいしょっ」のところ、覚え

ていますか？　そこで、私が爆弾みたいなのをつけたんですよ！

霊夢「もし逃げ切れてなかったらどうなると思ってるのよ」

美奈子「その時はその時ですわね！」

霊夢「（はあ。考えないんだから）」

美奈子「とにかくこっち行きますよー」

美奈子「うわあー！　ここですかね？」

兎耳ですか？　紫っぽい髪に、というか髪長っ！

??「貴方達……。もつと先に行きたい？」

美奈子「はい」

鈴仙「なら良いわ。倒して上げるわ。私は、鈴仙・優曇華院・イナバ。鈴仙か、優曇華で呼びなさい」

美奈子「鈴仙さん。異変の主権者の方々の中の人ですか？」

鈴仙「そうよ」

美奈子「なら倒します！」

鈴仙「ふっ。私の狂気の目から逃れれる奴はいない！」

霊夢「！鈴仙が何人もいるわよ？」

美奈子「ど、どれが本物でしょう？」

五人ぐらいの鈴仙さん達……つて！ 何で鈴仙さんが五人ぐらいもいるんですか

！ もう全部やっちゃいましょうよ！

美奈子「帽符「帽子ブーメラン」！」

霊夢「霊符「夢想封印」！」

鈴仙「なっ！本物を……！！？」

チュドーン

美奈子「ふう。倒しましたね〜」

霊夢「……まさかとは思うけど、見極めた訳じゃないわよね？」

美奈子「えっ？」

み、見極めた？

美奈子「私は適当にどれかをどんどんやってけば良いかな〜って思ってたわけですよ」

霊夢「はあ。良かった良かったわ」

え？ 何がですか？ ドユコト？

美奈子「とにかく行きましょう！」

霊夢「またでかいとこに出たわね」

えっ？ 髪が長い人が座ってる？

?? 「やつぱり。来たのね霊夢」

美奈子「え？知ってる人ですか？」

霊夢「…… 別に知らないわよ」

永琳「私は八意 永琳。てゐが説明してたでしよう？」

美奈子「…… はい。でも何でそれを？」

永琳「鈴仙が教えてくれたわ。貴方達が全部やったのでしよう？」

美奈子「えっ？」

霊夢「それはこつちのセリフよ」

霊夢「勝手にこの幻想郷で異変起こして、騒ぎまくって！よくこんな真似出来るわね」

あーあ。霊夢さんをおこらしちゃいましたよ。

霊夢「言つとくけど、今から謝るなら良いわよ？」

永琳「…… 私にそんな気はこれっぽっちも無いわ。こつちにはこつちの理由があ

るつてもんなのよ」

美奈子「じゃあ、無理矢理でも異変を解決します！」

永琳「秘術「天文密葬法」」

霊夢「霊符「夢想封印」」

美奈子「巨符「猫蛙」」

永琳「！」

永琳「無理ね……。強かったわ」

霊夢「やつと終わったわね。やつと帰れ「え？何言ってるんですか？まだいますよ？」
うわああん！」

??「お話しているところを悪いけど、貴方達は誰？」

！ あっちの襖のあっち側に、黒髪で長い髪の女の人がありますね。

美奈子「私は、洩矢 美奈子です。異変を解決しに来ました」

霊夢「私は、知っていると思うけど、博麗 霊夢よ。私も美奈子と同じで、解決しに
来たわ」

??「…… 霊夢……。やっぱり。それに、洩矢つて守谷神社の人でしょう？」

美奈子「そうです」

輝夜「私は蓬莱山 輝夜」

霊夢「とりあえず倒すわ！」

霊夢「「夢想転生」」

美奈子「巫女符「妖怪退治」」

輝夜「神宝「蓬莱の玉の枝々夢色の郷々」」

美奈子「わあっ！」

霊夢「私は当たらないわよ！」

輝夜「何で！」

霊夢「霊符「夢想転生」!!？」（近距離で！）

輝夜「ふにや々？」

美奈子「ふう々……… やつと終わりましたね」

霊夢「そうね」

第三十一話

永夜異変宴会

靈夢「はあー！もう何でここでやるのよ！」

美奈子「はい？何がですかー？」

靈夢「宴会よ、宴会！別に私のところでやらなくても良いじゃない！」

美奈子「えー？博麗神社以外どこがあるんですか？」

靈夢「あるじゃない！守矢神社よ！」

美奈子「私達は忙しいんですよ！お酒を持ってくるだけでも精一杯です！」

「みんな分のお酒を全部私達が運んでるんですよ!!? どんだけ疲れると思ってるんですかあ！」

靈夢「まあ良いわ。お酒を毎回持つて来てくれるからねー。前は、私が殆どやってたのよ？」

美奈子「えー……それは大変ですねえ」

私でも結構大変なのに、靈夢さんだったら、どれだけ時間がかかるんでしょうね？

靈夢「とにかく宴会を楽しむわよー！」

美奈子「いえーい！」

早苗「つて神奈子様！又飲んでるじやないですか！」

神奈子「良いじゃん！宴会は酒を飲まなきゃいけないし」

諏訪子「あー、確かにそうだけどさあ」

美奈子「えー？又神奈子さん飲んでるんですかー？」

神奈子「おつ美奈子！ほら酒飲め」

美奈子「うわあつ！？何回目ですか！私に飲ませようとするのは！」

神奈子「良いじゃん！それに、今度こそは美奈子に飲ませようとしたのになあ……
やめて下さいよね！ もう！ もう、私お酒恐怖症になっちゃいましたよ……」

永琳「にしても、異変を起こしたのに宴会に参加しちやつて良いのかしら？」

霊夢「そこら辺は良いのよ！みんなでパーティーつてした方が楽しいじゃない」

永琳「まあ。確かにそうね。じゃあ楽しく宴会に参加させて貰うわね」

輝夜「このー！妹紅私の取つておいた食べ物とるなあー！」

妹紅「ああー！？これは私のだー！輝夜が取つても私のもんー！」

輝夜「はいー！？全然何言ってるか分かんないー！」

妹紅「もう一回言うかー！？」

美奈子「あのか？妹紅さん？輝夜さん？」

妹紅「うるさい！今は邪魔するな！」

美奈子「……………」

え？

美奈子「妹紅さん？」

妹紅「だから邪魔だつて！」

美奈子「あの……………？本当に妹紅さんですか？」

輝夜「何よ妹紅。この人の名前とか知ってるの？」

妹紅「え？ちよつと待てよ？」（さっきの声は美奈子の声だよな。あ……………美奈子に

変なこと言つちやつた？）

美奈子「そんなに悪い人だつたんですね……………。寺子屋の先生やめたらどうですか

？」

妹紅「!?」（寺子屋の先生やめたらどうですか？寺子屋の先生やめたらどうですか!!

?え!!?）

妹紅「ち、違うつて美奈子！か、勘違いだよ！」

美奈子「何が勘違いですか。がつつり喧嘩してたじゃないですか」

妹紅「違う！“ああー!?これは私のだー！輝夜が取つても私のもんー！”のどこ

ろは、ちゃんと一個ずつ食べるよな、つて事で、“うるさい！今は邪魔するな！”は、怪

我しちやつたら危ないだろうな、って事だ！ちやーんと生徒は守らなきゃいけないだろ！！？」

輝夜「プー！めちやくちや妹紅焦ってる〜！」

美奈子「……：。そう言う事ですか！なら、妹紅さんは優しい人ですね！」パーーツ

妹紅「ほっ」

輝夜「命拾いしたわね」

美奈子「って事で輝夜さん！貴方にはお仕置きです！」

妹紅さんは優しい人です！ なら、輝夜さんが悪い人って事になりますからね！

輝夜「ああ！ちよっ！ちよっ！ちよっ！と待ってよ！勘違いしてる！妹紅が悪い人だ！いい、今か

らでも妹紅をー！あー！」

美奈子「口からは何も喋らないでくださいねー！こっちですよー！」

輝夜さんは悪い人！

美奈子「ふう〜。輝夜さん重かったですー……：。」

私は、輝夜さんを、霊夢さんの神社の近くにある、小屋に連れてきたんです！ ふっ

ふっふ……：。 何するかはお楽しみですねえ。

輝夜「ちよっ！！？私のどこが重いのよ！」

美奈子「じゃあお仕置きです！この小屋の中に入つて下さい！あつ出ても、スキマがありますからね？簡単には戻れないと思つて下さい」

輝夜「あつ！待つてよー！」

美奈子「じゃ」ガチャ

ふう。一件落着ですネ。

第三十二話

花映塚異変①

美奈子「花が綺麗ですねー」

早苗「そうですね！色々な花がいっぱい咲いてます」

諏訪子「何？この花」

美奈子「えーつとこれは何でしょうね？」

早苗「えーっ！私も分かりませんー！」

神奈子「私も……」

諏訪子「みんな分かんないの!?!？」

美奈子「そうみたいです」

諏訪子「とうかさあ、とにかくいつぱい咲いてるね」

美奈子「今は咲く時期ですかねえ？秋ですけど？」

早苗「うーん…… 確かに咲く時期って聞かれたらまあ咲くような咲かないような

？」

神奈子「咲くって言ったなら、やっぱり紅葉ぐらいしか思い付かないよなあ」

美奈子「そうですね」

早苗「あれ？たんぼぼって今の時期咲きますっけ？」

美奈子「多分咲きませんよ。何ですか？」

早苗「いや……こつち来て下さい」

諏訪子「え？何？」

神奈子「えっと？」

早苗「たんぼぼが咲いてるんですけど……」

美奈子「……」

諏訪子「何で？今秋でしょ？まさか……」

早苗「えっ！分かったんですかあ？」

えっ！ 凄いですね……。お母さん。私よりも先に見つけるなんて！ あっ。お

母さんの事馬鹿にしてるって事じゃないですかね？ 勘違いしないで下さい。

神奈子「何なんだ！」

諏訪子「たんぼぼって秋に咲く花なの？」

早苗「ええ？！違いますってば！美奈子が、多分秋は咲きませんよって言うてたじゃないですか！」

ないですか！」

神奈子「そうだぞ！美奈子の話聞かないなんて駄目だぞ！」

諏訪子「いやだって多分じゃん？もしかしたらさ、たんぼぼだって秋に咲くかもしれ

ないよ！」

早苗「た、確かにそうですね……」

神奈子「そ、そうだな。もしかしたらそうかももしれない……^{!!?}」

美奈子「いや違いますよ？信じないで下さいよ。じゃあ言いますよ？絶対たんぼは春に咲きます！だから秋には咲きません！」

というか、こういうの前やりませんでしたっけ？信じないで下さいよっていうの。あれ？ やった気がするんですけど。

早苗「た、たんぼは春に咲くんですか！」

美奈子「え？知らなかったんですか!!？」

早苗「そんな深く考えてなかった！」

神奈子「だよね！」

美奈子「あ、そういえば私、餅買って来たんですよ。ほら」

諏訪子「本当だ！食べたーい！」

美奈子「私達のはこっちの大きい方です」

神奈子「じゃあ、この小さいやつは？」

美奈子「えへへ何か霊夢さんのも買っちゃいました」

何か急に買うときに、なぜか……霊夢さんが頭の中に出てきたんですよ。そし

たら無意識に霊夢さんのものを買っちゃいました！ 何ででしょう？

早苗 「よし！ 霊夢さんのところ行きましょう！」

神奈子 「いやちよつと私は行かないかな……」

諏訪子 「わ、私も辞めておく……。 霊夢怖いし……」

美奈子 「じゃあ二人で行きましょう」

早苗 「はい！」

く博麗神社く

美奈子 「こんにちは〜！ 美奈子です」

早苗 「早苗です」

霊夢 「入って」

美奈子 「相変わらずこたつがありますねえ〜！ 暖かいこたつ」

霊夢 「そうよ。何かこたつの中入ると、頭がポカポカしてくるのよねえ。ずうつと入りたいわ……」

あれ？ 霊夢さんいつもと何か言い方違くありません？ いつもバージョンで言う
と、

「そうよ。何かこたつの中入ると、頭がポカポカするのよ。ずっと入りたいわ」
ぐらいのやつですけど？

美奈子「とにかく、餅持って来ましたよ！安かったので、二箱です。一箱は、今食べて、あと一箱は霊夢さん達で食べて下さい」

霊夢「へー！餅ありがとー」

ほらあー！いつもと反応が違いますよ！いつもは、とりあえず貰つとくわ、ぐら
いしか言わないんですもん！

早苗「つていうかく、秋って桜咲きましたっけー？」

美奈子「こたつ入って頭悪くなりました？」

早苗「そんな訳無いよお！」

やっぱり！早苗さんも可笑しくなっちゃいましたよ！
いでしょう！
といつか秋に桜咲く訳無

美奈子「何で……」

理由を調べましょう。このままだったら私も可笑しくなります！何か理由があるはずです。近くにあるやつの所為ですよね……？

美奈子「？」キョロキョロ

早苗「あれえ？どうしたの？美奈子」

近くにある……近くにある……あつ！もしかして餅ですか!? 餅なら今

も食べてるし、近くにありません！

早苗「無視されたよー霊夢さん」

霊夢「よしよし。良かったわね」

早苗「わーい。ありがとう」

意味分かりませんね……。良かったわねって、無視されたのが良かったねって言うてるのと同じですよね？

美奈子「近くにある……。あつた！」

こたつですよ！ こたつ！ あつちでも餅食べましたよ！ だから餅は、違えます！
という事で一件落着！

第三十三話

花映塚異変②

美奈子「そういえば、何で早苗さん秋に桜咲いてるんですか？聞いてたんですか？」

早苗「え？そりやあ咲いてたからですよ（こたつから出た（美奈子が壊した）から元に戻った）」

美奈子「え？ちよつと待つて下さいよ？」

はい!!? 秋に桜咲いてるんですか!!? 早苗さんもしかして、幻覚でも見えたん

じやないですか？

美奈子「！」ガチャ

美奈子「はい!!?」

咲いてるんですけど!!? …… あれ。もしかして桜つて秋に咲きました？ いや

！ そんな訳ないですよ！ 私までちよつと影響が……。

美奈子「これは異変ですよ！」

早苗「」シュ—

あれ。早苗さんが凄い感じで走ってきて、止まりましたね。

早苗「異変ですか!!?」キラキラ

早苗さんのあの目、絶対にワクワクした目ですよね？

霊夢「異変ですって？」

美奈子「よく聞こえますね……」

霊夢「そりゃあね！まず人間の里の人達が困るじゃない？で、私が異変を解決するじゃない？そしたら、人間の里の人達が喜ぶのよね。で、博麗神社の評判が良くなって、賽銭も入れてくれる人が増えて、私も嬉しくなってるね！もう一石二鳥よ！」

美奈子「早口で良く分かりません……」

早苗「凄い早口ですね。でもその前に、異変解決しに行きましょう！」

美奈子「どうやってですか？」

早苗「ふっふっふ。それはいつも通り、異変の主催者の人の所に行って、倒す！」

美奈子「へー。なら、異変の主催者って誰か分かってるんですか？それ以前に、どこにいるか分かってるんですか？」

早苗「え？え？え？わわわ分かりません！そんなに一気に聞かれても！」

霊夢「でも、なぜかいつもみたいな、異変の気がしないのよね」

早苗「え？どういう事ですか？」

美奈子「……確かにそうですね。私も何か、そう思っていました」

早苗「み、美奈子まで分かるんですか？？な、何か仲間外れにされてる気が……」

美奈子「それに、花から幽氣（幽霊の気）みたいなものとかの感じますよね」

霊夢「そうなのよね。普通の異変だったら、花から幽氣は出てこないわ」

美奈子「それに、今回の異変の主権者とかも、いない気がするんですよ」

霊夢「花からも悪い感じもしないし、特に今回の異変は解決しなくても良いと思うわ」

美奈子「そうですね。確かに今回は、私も異変を解決しなくてもなくて良いと思いま

すよ」

早苗「な、何か良く分かりませんが、異変を解決しないのは駄目ですよ!!? 異変は解

決するためにあるんです!」

美奈子「違うと思いますが……」

霊夢「とにかく、この意味を聞いた方が良いわよね」

早苗「え? 誰にですか?」

霊夢「紫? 聞いてるのよね?」

紫「モグモグ……」

霊夢「つてえー! 何餅食べてんのよ!」

紫「良いじゃないモグモグ。ゴクツ。ふう〜。ね? 美奈子。私も良いわよね」

霊夢「良いなんて言わないのよ! 美奈子! 今すぐ払えって言いなさい!」

美奈子「え、でも……、私、霊夢さん達で食べて下さいねって言いませんでした?」

紫「よしっ!」(でかした美奈子!私は何もやられる事はない!美味しいものもただで食べれて、怒られる事もないわ!)

霊夢「むうっ……。まあ良いわ。また貰えるし。それよりも紫、何でこんな事になったの?」

紫「そうね。この異変は、主催者何ていないわ」

早苗「え!!?ならどうして異変がお「早苗さん、静かに」分かりました……。」グスン……

紫「これは、外の世界で戦争が起きて、大変な数の人間が死んだわ。もちろんいつもも多いわ。でもそれぐらいの数じゃない」

美奈子「と、言う事は、日本で何万人もの人が死んだんですか?」

紫「そうね。そのせいで、死んだ人が、花に取り憑いて、沢山の花が一気に咲いた。と言うことね」

霊夢「ふむ。そう言うことだったのね」

早苗「や、やっぱり、よ、良く分かりません……?」

やっぱり早苗さんには難しかったですかね。私はそれより下……いや、本当は違いますけどね。それよりも何万歳も違うぐらいですか?

第三十四話

幻想郷問題①

早苗「また暇ですわねー」

美奈子「そんなこと言うと、また逃走中とかやらされそうなので言わないで下さいよ」
早苗「分かりましたよ。でも、本当はに暇なんですもん」

神奈子「もう逃走中はやりたくないな」

諏訪子「そうだね」

美奈子「え？何で神奈子さん達がやりたくないんですか？前やってませんよね？」

神奈子「準備をやらされた」

諏訪子「ね。めっちゃくちや疲れたんだよね」

早苗「へへ。神奈子様達も大変だったんですね。はあ。やっぱり暇」

紫「ふっふっふ。そんな君達のために、また私が面白そうな物を作ってあげたわよー
！」

美奈子「やっぱり紫さん出て来るじゃないですか」

やっぱり、私が言った通りじゃないですか。

早苗「何を持ってきたんですかあー！」

紫「ふっふっふ。その名「ねえ、その笑い方辞めてくれない？ちよつと不気味」え？神奈子？何言ってるのよ。これは良い良い笑い方でしょう？」

諏訪子「確かにそうだね」

紫「そんな……まあ良いわ。今日持つて来た面白い遊びは……幻想郷の問題！貴方達でも幻想郷の知らない事は沢山あるわ！その事を合ってるか、とか、知ったり出来るのよ！」

早苗「わあ！面白そうですね！是非ともやりたいです！」

紫「それは良かったわ。じゃあ早苗もやるわね」

美奈子「え？もしかして、早苗さんも、つて言ってるなら、私もつて事じゃないですよね？」

紫「え？そうに決まってるじゃない。神奈子達は、神だからまあ、やめとくけど、だけど貴方達は違うでしょ？」

美奈子「はい？私も神ですけど？」

紫「そこらへんは良いのよ！関係無い関係無い！」

美奈子「えー！強制なんですか？」

紫「そうよ」

美奈子「ううー」

紫「諏訪子と、神奈子はやらないのよね？」

諏訪子「うん！絶対にやだ！」

神奈子「私も。で、それ見たいんだけど、会場とか決まってる？」

紫「そうね。やっぱり博麗神社でやるから、見たいなら博麗神社に来て」

神奈子「ふむ。博麗神社か。よし諏訪子。準備したら、見に行くぞ」

諏訪子「行こー！」

紫「行くわよ」

美奈子「わあく！もう会場準備終わったんですね！一体いつから始めたんですか？」

紫「まあ、一昨日ね」

美奈子「私達が来なかつたら、一体どうしてたんですか……」

紫「？そこら辺は大丈夫よ。他にもやる人がいるわ」

美奈子「誰ですか？」

霊夢「私の神社の中に何立ててるのよ」

チルノ「あたいサイキョー！」

ルーミア「わはー」

レミリア「ふーむ！これは楽しそうね」

妖夢「頑張りますよ！」

輝夜「とりあえず、妹紅には勝つわ」

妹紅「とりあえずって何だよ！」

にとり「あつ私違うよ」

紫「つて感じね。もうちよつと呼びたかったけど、これぐらいで良いわね」

早苗「めちやくちやいますね！」

美奈子「何か最後違う人いませんか？」

紫「気にしない！じゃ、席に着いて」

美奈子「あ、この席に座れば良いんですね」

早苗「あー！スイッチと、タッチペンとかがあります」

美奈子「多分、これで、問題を出されたら、これに書くんだと思います」

早苗「あく！」

紫「へえ。確かにそうよ。他の人々！他の人達も、座りなさい」

霊夢「こんな物まで……」

チルノ「これだな！」

ルーミア「これなのだー」

レミリア「ふむ。これに書くのね」

妖夢「賞品もあるそうですし、頑張りますよ〜！」

輝夜「よっし！これで私が勝ったら、もっと私の方が妹紅より強いって事ね！」

妹紅「どうやったらそうなるんだよ!?？」

にとり「ん!?？だからこつち違う！カメラ違うってば！」

紫「よし。こんな感じで良いわね。始めるわよ」

頑張りますよ〜！

第三十五話

幻想郷問題②

紫「じゃあ、第一問。これは簡単よね？　〃〃〃この名前は？　〃〃

〃〃〃この名前はって、博麗神社とか言うことじゃ無く、〃〃〃全体の名前ですよね。よし。書けました！

紫「じゃあみんな！　一齐にオープン！」

美奈子「幻想郷」 霊夢「博麗神社」 チルノ「あたさいキョー」 ルーミア「幻想郷なのだー」 レミリア「幻想郷」 妖夢「博麗神社」 輝夜「妹紅の馬鹿」 妹紅「幻想郷」

紫「と言うことで、9%中、4%が、幻想郷。9%中、2%が、博麗神社。あたさいキョーとか、変な答え書いてる人は二人です。と言うことで、美奈子、ルーミア、レミリア、妹紅が正解です。今呼ばれた方は、一点獲得です！」

美奈子「わあ！　私一点ですかあ〜！」

ルーミア「一点なのかー」

レミリア「ふっふっふ……偉大なる吸血鬼のレミリア様は全問正解するのだ！」
あつ……。レミリアさん、もっとカリスマが凄くなってますよ。

妹紅「まあ、やつぱり最初からだよな。最初から、ふざけて間違えるなんてな〜」

輝夜「次からは勝ってやるわ！ふん！」

紫「第二問。ぷっ…… ゆっ、ごほんごほん!!? “出してる人の名前は?”
ええっ!!? 紫さんですよ? なんていう簡単な問題でしょう……。

紫「じゃあみんな！一斉にオープン！」

美奈子「八雲 紫」 霊夢「紫」 チルノ「ゆかりん」 ルーミア「紫なのだ」 レミリア
「ゆか（紫の上の部分しか書いてない）」 妖夢「八雲 紫」 輝夜「妹紅」 紫

紫「で、これはちよつと分かれ…… っ！チルノ何書いてんのよ！」

チルノ「ゆかりんでしょー？」

紫「ゆっ、ゆかりんじゃないわよ！で、何も書いてない、輝夜は何よ！もしかして、私の名前が分かんないって訳!!?」

輝夜「そうじゃないわよ！書こうとしたら早すぎて出来なかったのよ」

紫「ふうーん。私の名前ぐらい直ぐに書けると思うけど？まあ今は問題中だから、後にしてあげるわ。レミリアは？ゆかって何？床の事？酷いわね」

レミリア「いや違うわ！私も、輝夜と殆ど同じ理由よ！漢字が難しくて、上の部分しか書けなかったのよ！」

紫「まあ良いわ。じゃあ、チルノ、レミリア、輝夜以外は一ポイントね」

レミリア「ああああ！レミリア様の点数が！」

やっぱりレミリアさんのカリスマ？ 分かりませんが、前よりも大分変わっている気が……？

紫「第三問。〃幻想郷にある、二つの神社の名前を答えよ〃」

ふむ。それは、これとこれですね！

紫「オーブン！」

美奈子「博麗神社、守矢神社」霊夢「博麗神社と守谷神社」チルノ「何かと何か」ルーミア「霊夢と守矢神社なのだー」レミリア「博麗神社守谷神社」妖夢「博麗神社と、守矢神社」輝夜「知らん」妹紅「博麗神社、守矢神社」

紫「……もう我慢出来ないわよ！チルノは分かるわ！でも、霊夢！レミリア！輝夜ねえ！」

霊夢・レミリア「え？私？」

酷いですねえー！ 霊夢さんとレミリアさんは……。

霊夢「私何か間違えてたかしら？」

レミリア「そうよ！私、何も間違えてないわ」

紫「ふうーん。ねえー、美奈子！」

美奈子「そうですよ！守谷神社じゃなくて、守矢神社です！」

よく間違えてる人がいるんですよ！　これ。皆さんは、霊夢さんと、レミリアさんみたいに、間違えないで下さいね！

紫「だから、美奈子、妖夢、妹紅が正解。一ポイント」

わあーい！　私、全問正解ですよ！　やったあー！

紫「ふむ。美奈子と、妹紅が、全問正解。輝夜と、チルノが全問不正解。もつと頑張りなさいよね！」

妖夢「あ、あの……。怒らないで……。」

紫「そうね。じゃあ第四問。美奈子の種族は？」

いやいやいや！　私に関する問題二問もあるじゃないですか。私、今日めちやくちや運良いですね！

紫「じゃあオープン！」

美奈子「神と妖獣のハーフ」霊夢「猫？」チルノ「猫」ルーミア「神？」レミリア「神か猫？」妖夢「神と妖獣」輝夜「知らん」妹紅「神？」

紫「うん。『？』付いてる人沢山！合ってる人は、美奈子、妖夢ね。凄いわねえ、美奈子。全問正解一人勝ち！まあ、今のは偶々美奈子の問題だったから、分かったんだろうけど。次の問題、行くわよ」

第三十六話
ハロウィン

早苗「ハロウインだあ〜！」

美奈子「ハロウインですね」

諏訪子「ハロウイン!!？」

神奈子「？」

諏訪子「ハロウインってなあに〜？」

神奈子「右に同じく」

早苗「ええ〜？知らないんですかあ〜？」

美奈子「十月三十一日の夜にあつて、天から、死んだ人や、まあお化けの様な人達が降りてくる日で、そこら辺をさまようんですよ。で、お化けに会ったら、トリックオアトリート! って言われるんです。つまり、お菓子をあげていたずらされないか。お菓子をあげないでいたずらされるかですね」

諏訪子「ふむふ〜む？」

神奈子「つまり、夜出歩くなつて事だろ？」

美奈子「いやそういう訳じゃ「いやあ! 神奈子様! 夜出ないと何も面白くないじゃな

いですか！それだつたらハロウインの意味無いですよ!!?せつかく、年に一回しかないのに！勿体ないですよ！」

神奈子「あ、うん。夜出歩けば良いんだ」

早苗「そうです！」

諏訪子「分かった、分かった！つまり、お菓子をたあつくさん、持ってつて、夜出れば良いんですよ？」

早苗「そうです！」

美奈子「あ、そういえば、私達もお化けになれて、お菓子貰えるんですよ」

神奈子「そうなの!!?」

美奈子「まあくやつぱり私は化け猫ですかねえ」

諏訪子「そつちも良いね！何になろつかなあー？化け蛙？」

美奈子「いや、化け蛙つて何ですか!!?」

早苗「まあ、お楽しみですよ！後でのお楽しみ！今はとにかく準備しましょう！」
く夜く

美奈子「出来ました！」

早苗「私もく」

神奈子「私も」

諏訪子「出来たよ」

私は言った通り、化け猫で、早苗さんが魔女、お母さん（諏訪子）が、何かよく分からないけど化け蛙（?）。で、神奈子さんが普通の服……あれ!?

美奈子「神奈子さん……」

早苗「あーれー?普通の服の様な……」

諏訪子「普通の服じゃない?」

神奈子「ん?だって、良いんでしょ?普通の服でも」

美奈子「良いですよ」

何か地味みたいな感じですよねえ……。神奈子さん何になるのかなーって気になつてたんですけど……。

諏訪子「まあ行こー!」

早苗「博麗神社で、ハロウィンのイベントやつてるそうですよ!」

美奈子「行きましょう!」

く博麗神社く

霊夢「トリツクオアトリート!お菓子くれなきや賽銭入れて貰うぞ!」

美奈子「何ですか。それ?まあどうぞ!お菓子です。私の手作りですよ」

早苗「わあ!美味しそう。霊夢さん良いなあ」

靈夢「……早く頂戴よ。後の残りもよ」

早苗「えー。分かりましたよ。自分で食べたかったのになあー。クッキー」

神奈子「はい」

諏訪子「トリツクオアトリート！」

靈夢「え？」

諏訪子「ん？何？お菓子頂戴〜！」

靈夢「え？私、今言ったけど……まあ良いわ。言われたなら、ね。はい。早苗から

貰った奴。変な色してるからあげるわ」

早苗「えー！変な色なんてしてないですよお！」

靈夢「ほら。黄色よ？」

早苗「知らないんですか！バナナですよ、バナナ！今年ブームのバナナ！」

靈夢「あ、そう。まあ私には関係無いわ。だって、他に私お菓子持つて無いのよ？さっ

き的美奈子から貰った、お菓子はもう家に置いてきたし」

早苗「ー！」ムキー！

美奈子「まあ行きましようよ。次のところ」

早苗「えー。分かりましたよ」

第三十七話

トリックオアトリート

諏訪子「次は誰にする〜？」

早苗「うーん、うーん！やっぱり、出会った人！」

美奈子「早苗さん。でも、出会った人って言っても、いっぱいいますよ？三十人ぐら
いは超えてるでしょうね……………」

神奈子「うんうん……………」

美奈子「どうしたんですか？急に頷いて」

ちよつと怖いんですけど。そんなに急に頷かれても。

神奈子「やっぱり、ハロウィンって凄いなあ、つて。だつてさ？いつもだったら、博
麗神社にこんなに来ると思う？来な……………」グハッ！」

あ、霊夢さんの飛び膝蹴りが……………」

諏訪子「おお！霊夢選手の猛烈な、飛び膝蹴り、きまつたあ！神奈子選手、お腹を飛
び膝蹴りされて、口から泡を出している！凄いぞ、凄い！神奈子選手を泡吹かせるぐら
いまでの飛び膝蹴りの力を持っている、霊夢選手！もう優勝と言つても過言ではないだ
ろう！」

美奈子「何言ってるんですか、お母さん。何で実況みたいなのしてるんですか。とうか、実況上手ですね」

早苗「た、確かに……………」

美奈子「次行きましょう。神奈子さんは置いてって」

諏訪子「そうだねえー！」

魔理沙「く〜♪」

美奈子・早苗・諏訪子「トリックオアトリート！お菓子くれなきゃイタズラするぞー！」

魔理沙「だぜ!?…………… あー、びっくりしたぜ。急に出て来るとびっくりするじゃないか」

美奈子「ふふふ……………。もうイタズラしちゃったみたいですね……………」

早苗「早く！」

魔理沙「分かったぜ。ほい。3個…………… って？神奈子は？」

美奈子「ああ。神奈子さんなら、さつき置いてきました！」ニッコリ

魔理沙「(意外と美奈子怖いぜ……………。敵にしたくないな)」

美奈子「大丈夫ですよ。魔理沙さん。お菓子をくれれば敵にはしません！」

魔理沙「な!?？」

美奈子「あ、何で分かった!?？って事ですか？それはですねえ、魔理沙さんが、そん

な顔色をしたからです。怖がってたから、もしかしたらな。と思つて」

魔理沙「(もしかしたらで分かるのが凄いで……) まあ、お菓子」

美奈子「ありがとうございませす！」

早苗「わあ〜！」

諏訪子「ジュルリ……、よし！次行くぞー！」

美奈子「あ、妖夢さんがいますよ〜？時間的にもこれが最後かもしれません！最後に頑張つて、めちやくちや怖く、『トリックオアトリート！』ですよ？準備は、良いですか？」

早苗「私は、大丈夫です！諏訪子様は準備OKですか？」

諏訪子「うん！準備OK！大きな声の準備もね！」

美奈子「じゃあ行きますよ？せーのっ！」

美奈子・早苗・諏訪子「トリックオアトリート!!？お菓子くれなきやく？イタズラしちやうぞお〜」

妖夢「ぎやあああつ！お化けが出たあああつ！幽々子様助けてえええつ！」

幽々子「モグモグ〜？ゴクツ。大丈夫よ。妖夢」

妖夢「何が大丈夫よ、何ですか！どこも大丈夫じゃないですよおお！」

美奈子「お菓子くれないならイタズラしますよー？」

第三十八話
クリスマスイブ

諏訪子「メリーくりふまふ！」

あ、あのお、お母さん……『メリークリスマス』が、メリーくりふまふになってますけど。

神奈子「違う！」

あつ、神奈子さんが言ってくれますね！ なら安心安心。

神奈子「リリークリスマス！」

あー、それは、リリーさんの、クリスマスですね。惜しい！

早苗「ふっふっふ！みんなが分からないなら私が言いますっ！」キラーン

おっ！ 早苗さんなら言えますよね。だって、元々は幻想郷の外で生きてましたもんね。言えなきや恥ずかしいもんですよ。

早苗「ふっ！メリー栗酔魔です！」

ええ!?? メリーまでは合ってますけど……ええーつと、栗が、酔につけてあつて、それが魔で、ひらがなのす……。一体、どう言う意味ですかあ!??

美奈子「もう言いますよ？まず、メリークリスマスです！お母さんは、クリスマスの

部分のすが、ふになつてて、神奈子さんは、リリーさんのクリスマスになります！で、早苗さん！一番合つてませんよ!!? しつかりして下さい！」

ふうー。やつと言いたいことが言えました！で、一番駄目なのが……

美奈子「メリークリスマスじゃなくて、クリスマスイブですつつつ！」

諏訪子「何だとおお!!?」

神奈子「な!!?」

早苗「何で私が一番合つてないんですかあ!!?」

…… 早苗さんだけ、叫ぶ目的が違う気がするのは何故でしょう……

美奈子「と言うことで、明日の準備をしましょう」

早苗「準備つて何するんですか？」

美奈子「知らなかつたんですか!!? 早苗さん、今まで幻想郷の外にいましたよね!!?」

早苗「記憶がない☆」テヘツ

さ、早苗さん……

美奈子「記憶無かつたんですね……」

私はそこも知りませんでした……

美奈子「と言うことで、準備をします！クリスマスツリーは、私が出します。クリスマスケーキは私がこつちで用意しておきました。実は、私達は、幻想郷の色々な人達に

プレゼントを配る事になってるんですよ。私達は、正体がバレない様にサンタさんの服に着替えてもらう事になってるので、服は、渡します。はいどうぞ」

早苗「わあっ！私、初めてかもお！」

こんな時にも早苗さんは、はしゃぐんですね。

諏訪子「いえっふうー！サンタサンター！」

神奈子「……着てみよ」

あれ。神奈子さん、テンション低いですね。

早苗「あ、そうです！トナカイさんは!?？」

美奈子「と、トナカイさんですか。まあ良いですよ。はい。四人分です。大切にして

下さいね」

まさか、トナカイさんも要求されるとは……。

早苗「分かりました！よしよし。良い子ですね！貴方の名前は、トナカイなので、トナちゃんです！」

諏訪子「うっ!?？早苗が名前つけてる！私も、じゃあ、中井さんね！」

えっ!??

神奈子「じゃあー、中井トナちゃん」

うわー、カオス化して来てる。

美奈子「じゃあ、私は、北側をするので、早苗さんは、西側」

早苗「らじゃー！」

美奈子「お母さんは、南側」

諏訪子「おけまるー！」

美奈子「神奈子さんは、残ってる東側です」

神奈子「おっけっけ」

……さつきから思ってますけど、その合図なんですか。

美奈子「じゃあ、袋も渡しておきます。じゃあ、明日よろしくお願いします」

第三十九話
クリスマス

早苗「メリークリスマス！」

美奈子「クリスマスですわね」

神奈子「クリスマスっす！」

諏訪子「ククリリスママス！」

いや多過ぎ……。

美奈子「と言うことで、行きましょう！」

出発です！

美奈子「着きました。じゃあ、皆さん、頑張つて下さいね！」

早苗「あ、そう言えば、どれが誰のか分かるんですか？」

美奈子「ああー。それは、うん。色々です。自動で分かると思うんで。まあ、そこら辺は私は知りません！」

あはははは。

早苗「なっ何だとおお!!？」

神奈子「じゃあ誰が作ったの？」

『 サンタさんへ

お仕事お疲れ様。

私は、春のかけらが欲しいです。お願いします。

横の人参と、クツキーはどうぞ。不味かったら、腐ってるんだと思います。

リリー ホワイトより

ですね。春のかけら…… あつた！

美奈子 「これですね。あつ、一応人参達も、貰つときましようか。うわっ！」

リリー 「うーん？」

あつ！

リリー 「むにゃあ」

ほっ。ぐちゃぐちゃになってましたよ、人参達があ。うう。貰つときましよう……。

美奈子 「はあー。帰りますか」

美奈子 「えっと次はどこでしょう？」

あ、ここですね。随分立派なお家です。まあ、魔理沙さんのとこなんですけどね。

美奈子 「よし。あ、手紙」

『 魔法書下さい 』

美奈子「ええっはっ！」プツ

危なかつたです。魔理沙さんが起きるところでした……。危機一髪ですね。

美奈子「ま、まああげますか……。リリーさんと違って人参とかもありませんけどね」

美奈子「ふう。次は近いですね。ここですね。アリスさんの家」

美奈子「??」チラツチラツ

よし。人形は……。いなかっただ……。と思つたらいたあつ！ 早く手紙持つてかなきゃ！

美奈子「あ。プレゼント置いてくるの忘れた……」

手紙見ますか。

『サンタへ

お仕事お疲れ様です。私が欲しいのは、人形の布です。何色でもいいので、下さい。

アリスより』

美奈子「早く行かなきゃ。よし、置けました！早く帰りましょう！」

美奈子「ふう。因みに、多過ぎても無理ですから私はここで終わりです。元の場所に帰りますか。

美奈子「あ、皆さん」

全員居ますね。速いです。

早苗「私、近かつたんですよお」

神奈子「神の力(?)」

諏訪子「中井さんを進化させたのだ！」

え? え? え? 早苗さん以外、理由が。

美奈子「ま、まあ、寒いので帰りますか」

諏訪子「そうだね！」

第四十話

クリスマス

早苗目線

早苗「いええいつ！じゃあトナちゃん！行きましょー！行けー！」パシイインツ！
わあ、すごい音出ましたね！ まあ、今の馬か！ あははははは。最初のとこ行きましょー。最初はここですなえー！ えつと、五つ家が並んでますね。左から行きましょー。

早苗「さ、寒……っ！狭……っ！あ、」

この家、チルノさんの家だったんですね。道理で一面氷。手紙が置いてありますね。

『サンタへ

あたいが欲しいのは、大きい、蛙の凍らせた奴、庭にどーんって、置いて！

クッキーとかお菓子も置いておいてね！大ちゃんのも！

お願いねっ！

チルノより（全部平仮名）』

うわっ！めっちゃお願いしてくる！

早苗「ま、まあー、私サンタだし。お菓子もあげますよ！庭にも置きますうー！」

早苗「次々〜！わっ！こっちの方があつたかいし、大きいですね！大妖精さんのみたいですねっ！」

手紙は〜？

『サンタさんへ』

サンタのお仕事お疲れ様です。

甘えちやつてすいませんが、お菓子が沢山入っている袋を下さい。お

願います。

横にある、コロコロ飴は、舐めてつてどうぞ。

大妖精より』

うん。言い方は良いんですけどお、欲しいもの、お菓子でいいのかな。まあ、飴も貰つていきましょ！ お菓子袋も置いて。次ですよ！

早苗「暗っ！て、手紙ない……？あ、白い文字がちよつと見えますね。えーつと、私のフィギュアくれー、わはーって書いてありますね、つて！どういう趣味ですか！はっ！危ないですね。起きるところでした……」

まあ、良いとしましょう。

早苗「プレゼントを置いて、よし！」

次ですね！

早苗「うえっ！虫がいっぱい……っ」ウエツ
 気持ちわ……ごっ、ゴホンゴホン！手紙見ますか……。

『サンタクロスへ』

虫図鑑頂戴。

リグル』

わあ、やっぱりリグルさん。つてえっ！サンタクロスになってる！
 というか虫図鑑って何!!?」

早苗「あ、これですね。虫図鑑。喜ぶのかな」

まいつか！

早苗「次はここですっ！えっ、意外と広……っ」

あ、屋台ですね。これ、ミステリアさんか。これ。手紙を見れば分かることです！

『サンタ

』

あれえ。これ何あげれば良いんですか？
 というか、名前わかんなかったああああ！

早苗「インコでもあげましょ……っ」

よしっ！
 これで私の仕事は終わりました。帰りましょう！

早苗「早く来過ぎたあ……
 神奈子様も諏訪子様も美奈子も居なあーい……。

うう。寒つ。早く誰か来ないかな……？
頑張って早くし過ぎた早苗であつた……。

第四十一話

クリスマス

諏訪子目線

諏訪子「よしやああああつ！くうりいすうまあすうううつ！行くぞつ！中井さんつ
！」

やつと来たー！ クツリスマース！

諏訪子「最初はくつここだ！煙突から入ろ」

ちなみにここは妖夢達がいる場所！ で、手紙！

諏訪子「なあに何〜？

『サンタへ

仕事お疲れ様です。横にあるお菓子は食べてつてどうぞ。

私が欲しいのは『食べ物』（赤い線で囲ってある）です！持って来てくれます
よね？

妖夢』

へ？食べ物……ま、まあ先に、お菓子を食べさせてもらおう！」ガブ

幽々子「おおい……。私のお菓子……」

もぐ？　ゴクツ。まさか……？

幽々子「食べただろおとおつ！」ガアオオ——！

諏訪子「がおーレベルじゃないよーっ！」

怖いー！　これじゃプレゼント置けないよ！

諏訪子「はあ……。びっくりしたー……。次行こう」

諏訪子「って、プレゼント個々のやつしかないよ？暇つぶししてよーっ」と

ん？　どうやって暇つぶしするかって？　ふっふっふ。プレゼントのお菓子を食

るのだ！

諏訪子「んんーっ！美味しっ！」

というか、美味しいの美って、美奈子の美だね。

諏訪子「で、妖夢にあげる予定のプレゼントは、ステーキだから、食べよう！」モグッ

諏訪子「あら美味しい！」

こんな言葉が出るぐらい美味しいのだ。

諏訪子「で、幽々子にあげる予定だった、お菓子！こっちは、飴ちゃん！ペろペろー

！あ、終わっちゃった」アレ

早くない？

諏訪子「で、お煎餅！」ガリツ

ああー歯が欠けたかもー（？）

諏訪子「ジュース飲も！一応のために持って来てたんだよねー！良かったー」ゴクゴク

諏訪子「……うう。冷たいよ！そつか。外だから冷たくなっちゃったのか。なら仕方ない！」ゴー

諏訪子「ぶはあっ！うんうん。冷たいこと以外は美味しいね！やっぱり凄いや！ジュース！」クン

うん。暇。

諏訪子「そうだ！生麦生米にやま卵！あ。間違えた……」

ここら辺にいる全員！それと、見てる諸君！今のは見なかったことにしてええええ……。本当にお願いちまつう。また噛んだし。今日不幸だよお。

諏訪子「えつと。ば、バsgas爆発？（一秒に一言ぐらいの速さ）」

あ、おつ、遅いのは気にしないでね？ ね？

諏訪子「もうそろそろ帰ったほうがいいかな。よし、戻ろう！中井さんっ！」

諏訪子「たーだいまー！あ、早苗じゃん。速いね。まさか、中井さんの力を上回った
というのか？」ガタガタ

早苗「……」

あれ、早苗何も言わないよ？

諏訪子「んん？あ、固まつてる……。はいお湯」ドバアアアー

早苗「はっ！あつたかい〜！」

あ、起きた。

諏訪子「早苗？」

早苗「あつ☆%♪・↓☆♪!?!?すつ、諏訪子様じゃないで、ですか!?!?」ビクウ

諏訪子「さつきからいたよー？」ニヤニヤ

早苗「そつ、それにしても来ないですね、他の人が。待ちます？私がさつきまでいた
ところで」

諏訪子「いいねっ！」

諏訪子は、この後水漬けになった……。

第四十二話

クリスマス

神奈子目線

神奈子「よし。行くよ、中井トナちゃん。みんなに負けないようにしなくっちゃ！勝
負に負けたら、恥ずかしいもんだあつ！良いか！」チラツ
……。

神奈子「い、良い？」シーン

神奈子「ま、まあ行くか」

神奈子「最初は………。迷いの竹林だな。と言うか、………。

迷ったあああつつつつ!!？」

どうしよう、どうしよう！私に変な事してる間に、早苗も、諏訪子も、美奈子も私
に勝ってしまう！いや、そんな事駄目だ！私の信頼感が沢山減ってしまう！そし

たら私は、守矢神社から追い出されて、ごみ袋の中で、ずっと、ずっと、過ごす事に……。いやちよつと待て、私！誰か助けてくれるかもしれない！ここら辺を沢山歩いていけば、誰かに会える！多分。奇跡を信じるしか。うう。良いなあ。こう言う時には、早苗が役立つのに。まあ、歩こう！

神奈子「はあー。ちよつと!!?一時間ぐらい回つてるのに、誰とも会えな……。あれ……。?」

な、何か背後に寒気が……?

神奈子「……!!?」ガタガタガタガタ

優曇華「あの?」

神奈子「ギヤアアア！お化けえ！」ギヤアアア！ダダダダダダ

お化け出たー！

神奈子「あつち行け！はいやつ！塩っ、塩！」ポーンポーン

優曇華「私は、お化けじゃ無いですよ？神奈子さん」

神奈子「え？あ、ほんとだ」

優曇華だったわ。

優曇華「あの、その服はつてえ！あああああれえー！」アアアアア
あ、優曇華落ちてった。

神奈子「あれ？落とし穴だ」ン？

てゐ「あ、優曇華ハマったウサねーっ！よし、ボタン押すウサね！

神奈子「あちよいちよいちよいちよい！」オイ！

てゐ「ウサ？」

神奈子「はい、人参」

てゐ「につ人参ウサあ！く、くれるウサの？」

ふっふっふ。

神奈子「そりやそうだよ！ふふふ……でも一つ聞いて欲しい」フッフ

てゐ「何ウサ？」

神奈子「今日優曇華に毘とか仕掛け無い。約束して」

てゐ「う……。分かったウサ！だから早くその人参くれウサ！」

よし。『優曇華毘無くし、人参脅し作戦』、成功。意外と普通に行けた。優曇華が、落とし穴の下でめっちゃ喜んでるのが私の目に見える……。何故？

神奈子「分かった、分かった。そんなに人参欲しいのか。じゃああげよう。その代わ

り……約束、守って?」

てゐ「分かったウサ!」テクテク

てゐ、帰つてつた。うん。まあ、あれ、クリスマスプレゼントだけど。まあ……ね

! ね! うん。他の人のもあげよ。

神奈子「はいっ! 縄だよ。それと、他のみんなの今年のクリスマスプレゼント」

紙には何も書いてなかったから、別にこれで良いよね。輝夜達とかに配るの大変だし。優曇華に任せ。

神奈子「帰ろ」

神奈子「ただいまーつて! 早苗!? 諏訪子!?」

早苗・諏訪子「……」カチーン

神奈子「おうふ。お湯」ナゼオユヲモツテイル

神奈子「大丈夫?」

まさか凍つてるとは。

諏訪子「すびいー、はっ!」

早苗「寒っ！」

神奈子「起きたね」

早苗「あ、神奈子様じゃないですか！」

神奈子「さつき来た」

神奈子「美奈子待つか。立ってようかな」

早苗（神奈子様は引き寄せ無かった！）

第四十二話

初詣

早苗「初詣行くかあ〜？」

諏訪子「初詣行くぞー！」

美奈子「いや、早苗さん達、机に乗らないで下さいよ」

早苗「はい」

諏訪子「むう。じゃあ初詣行くか！」

く博麗神社く

霊夢「あ、来たのね。あつち（守矢神社）の奴……、はっ！うふふ。素晴らしい賽銭箱はあちらよ。あ、御神籤と、御守りはあれ。御神籤は、良く当たるわよ。で、今年の運勢が、大吉だった場合、ここの御守りが、安くなるわ。是非やった方が良いわよ。で、御守りが、あのねえ、実は、御守りを買った人里の人が言ってたんだけど、火事が起きたんだけど、丁度御守りを持って、火が五秒程で消えたのよ！跡形無くな！御守りにも、神様が宿ってるかもしれないわ！」キラーン

美奈子「わ、分かりましたよ！賽銭も入れて、御神籤も御守りも買います！」
れ、霊夢さん、お金に関すると、凄い話があるんです。

霊夢「うふふ」ニヤリ

早苗（霊夢さん、不敵に笑ってて、怖）

神奈子（霊夢、早口になったなあ）

諏訪子（霊夢、頭悪くなったな）

美奈子「……………」

お祈りしてます。

美奈子「ふう。霊夢さん、御守り何銭ですか」

霊夢「百よ！」

美奈子「分かりました。じゃあ、お母さん達のも買つときますね」

霊夢「毎度あり〜」ニヤリ

早苗（また怖っ！）

美奈子「早苗さん、どうぞ」

ん？ 早苗さんガタガタ震えていますね。どうしたんでしょう。

早苗「……………」

美奈子「早苗さーん？」

早苗「あつ！はい。何ですか？」

早苗さんどうしたんでしょう。

美奈子「御守りです。で、さっき震えてましたけど、どうしました？」

諏訪子「夢の国に行つてたんじゃない？」

神奈子「それはないでしょ」

うん。それはないですね。早苗さん、普通に目開いてましたもん。

美奈子「お母さん、御守り神奈子さんのも渡して下さい」

諏訪子「おけ丸うー！」

霊夢「あ、御神籤も引いてつてね！」

分かつてますよ。

美奈子「これは自腹ですかね」レイムサンオミクジヒヤクゴジュウセンチテ、イッテ

マシタヨ

早苗「そうですね。払いましょう」

霊夢「うんうん。ちゃんとあるわね。はい。御神籤」

早苗「おっ！」

諏訪子「見せて！あ、そうだ。みんなで順番に見せよ！」

神奈子「良いね。じゃあ美奈子から」

美奈子「えっと、私は末吉ですね。えっと、

商売 買うのは良し。だが、売ると家が火事になるだろう。

金銭 賽銭箱に金を沢山入れると良。

ですわね」

明らかに霊夢さん企んでますよ、これ。

早苗 「じゃあ私！凶……」。

商売 商売が良く進んでいたら、一週間程休め。

金銭 金を稼ごうとすると金が無くなっていく。

です！」

やっぱり。

神奈子 「あ、やった。一番上かも。中吉。

商売 ちよつとずつ稼いで行かないと、客足が減るだろう。

金銭 もし友に神社の人が居たら、お裾分けなどをしろ。

……」

う。

諏訪子 「うああああつ！大凶ー！

商売 商売をすればするほど金が減っていくだろう。一ヶ月程休むが良。

金銭 色んな所を歩き回れば金落とし。家に入れば物失くし。

うええ。金銭の奴どうすれば良いの?!? 家に居ても、外に居ても駄目なんですよ?!?

霊夢「また来てねー! あ、御神籤は百五十銭でーす! で、大吉だったら、御守り安く
なりますよ!」

霊夢さんが、他のお客さんに……… って、ここに、お客さん来てる!

諏訪子「な、何だと?!? 霊夢のどこに来てる! つまり」

早苗「私達も頑張らなくっちゃ行けませーん!」

わあ、お母さんと早苗さんののライバル精神が……。

第四十三話

緋想天異変①

諏訪子「ふわあ〜」

神奈子「ネム〜」

二人とも寝不足のようです。

美奈子「それにしても、早苗さん帰ってこないですわねえ」

実は、早苗さん人里に買い物しに行ったんですけど、一時間たつても帰ってこないんですよ。いつもなら、三十分くらいで帰ってくるんですけど。

神奈子「ウーン。オカシイヨネー。ワラエナイイ」

デースーヨーネー。ワラエナイイ。ハアー。モウヤダー。はっ！ いけない、いけない。神奈子さんみたいに片言になっちゃうとこでした。危なかつたです。

美奈子「じゃあ、人里に行つて、早苗さん探しますか。二人とも準備して下さい。行きますよ。早苗さん居なかつたら、大変ですからね」

色々大変なんです。巫女の仕事も私よく分かりませんし。（巫女っていう設定でもあるけど、気にしないでね☆）

五分後

神奈子・諏訪子「準備オツケー！早く行くよ！」

わあお。ピツタリ息合ってますね。

美奈子「じゃあ行きましようか」

人里

美奈子「あれー。誰もいませんね」

人里はガラーンってしてますね。子供一人も居ないです。何があつたんでしょう。大丈夫でしょうか。

諏訪子「わあーい！これだったら遊べるうー！」
……。

美奈子「真剣に！」

これは遊びじゃありません。

諏訪子「はい」

神奈子（母と子供、反対になつてない？ えつと、普通が諏訪子が母で美奈子が子供。反対に見えるー。つまり、諏訪子は、しっかりしてないって事かな！）

十分後

美奈子「誰も居ません。お店を見ましたが、誰も居ませんでした」

可笑しいですね。凄い不気味です。

神奈子「どこ行っちゃったんだろう」

はあ。本当にそうですよ。早苗さんどこ行っちゃったんでしょう。

諏訪子「ええく？早苗がいたら能力で分かるのに」

……、あ！

神奈子「もうく。諏訪子ったら。早苗がいなかったら意味ないじゃん」

美奈子「……いや」

神奈子・諏訪子「へ？」

美奈子「そうですよ！お母さん凄いです！」

諏訪子「私？」

神奈子「何が凄いの？」

美奈子「お母さんです。あの、私の能力で、〃早苗さんがいる場所〃を、隙間です。能力で！したら、早苗さんの場所が分かります！そして、他の子もそこに入れば良いし、いなかったら、〃他の子が居る場所〃を、隙間です。そして、大丈夫ですよ！一件落着ですよ！」

お母さん、意外と頭良かったんですかね。そのお陰で助けられます！

神奈子「じゃ、探そうっ！」

美奈子「……」

神奈子「……………」ゴクリ

諏訪子「ゴクリ……………」

二人とも待つてますねって！ 神奈子さんは良いとして、お母さん、もう、声でゴクリつて言つちやつてますよ。あ、集中、集中……………」

美奈子「！」

神奈子「どう!?!?」

美奈子「あ……………、幻想郷の上の、天界です……………」

神奈子・諏訪子「ええ!?!?」

まさか、そんな遠い所に早苗さんが、行つてたなんて……………」

第四十四話

緋想天異変②

諏訪子「まだなのー？」

美奈子「天界遠いんですよー……………」

神奈子「もう寝たい……………」

えー。前から大分投稿の時間が空いているので、おさらいしますねー。

早苗さんが、おつかいに行つたのに、全然帰つてこないことに私達（美奈子と諏訪子と神奈子さん）が変に思つて、人里に来た。人里には子供一人いなかったの、能力で早苗さんを探すことにした。

で、天界にいることが分かつて、私達が天界に向かう。

今に至りますー……………」

というか作者出すの遅いですよーっ！ プンスカプリン

前出したの一月ぐらいなんですけどーお!!? あ、話を戻しますねー。

美奈子「あつ。見えてきましたよー」

神奈子「へえ。島みたいなのが浮かんでる、つて感じなんだね」

美奈子「あつちに早苗さんがいるようですねー」

諏訪子「あっちってどっち？」

美奈子「ここの左の島ですー」

神奈子「この島か」

諏訪子「今早苗何してるんだろう」

私達は島に踏み込む。

へえ。この島が見た中では大きい方ですねー。

美奈子「この建物の中に早苗さんがいるようですねー。入ってみましょうー」

私がドアを開ける。

早苗さんはどこの部屋でしょうー。

美奈子「ふむー。ここのパーティ？などをやる大きい所から、早苗さんの気がありま

すー」

神奈子「……」

美奈子「?どうしましたか、神奈子さんー？」

神奈子「いや。何でもない」

? どうしたんですよー、神奈子さんー。

ガチャ

?? 「あれ。誰? まあ誰でも良いやー。なんかで遊ぼう」

美奈子「誰ですかー？」

??「ええ。名前を聞かずに先にそっちが言つてよー」

神奈子「いや。知らないよこの奴に名前を教えない方が「いや」良いんじゃないよ……」

美奈子「そうですねー。すいません。私は、洩矢 美奈子ですー。こっちは私のお母さんの洩矢 諏訪子。で、こっちは八坂 神奈子さんですよー」

天子「へえー。そうなんだ。よろしく、美奈子達。私は天子。何しに来たのー？」
自己紹介をする。

天子さんかあー。天使？ 違つかー。いやでも天界ですしー。

美奈子「私達は。早苗さんつて言う緑髪の人を探しに来たんですけど。ここにいると思うんですけど、早苗さんは何処ですかあ？」

天子「えー？早苗かー。ちょっと待つててー」

と言うと、天子さんは他の部屋に潜り込む。

早苗さんいますかねー。いなかったら私の能力使えなーい！

天子「この人？」

早苗「美奈子ー！」

と言つて早苗さんが私を抱きしめる。

美奈子「えー。早苗さん！苦しいですよー」

私が首を抱きしめている早苗さんの手をトントンと叩き言う。

早苗「ん？美奈子？」

早苗さんが手を離す。

美奈子「はい？どーしましたー？取り敢えず帰りましょー」

私はドアノブを掴む。

早苗「美奈子なんか変じやないですか……？」

神奈子「そーなんだよね。さつきから変なんだよ。まあ帰ってから考えよ！」

守矢神社

諏訪子「たーだいまー！」

早苗「ん？」

神奈子「あれ。美奈子。何で炬燵の中に……」

美奈子「あ。お帰りなさい。さつき眠くって仕方がなかったから、分身作って行かせたんですよ。どうでした？役に立ちました？」

えへへ。

美奈子以外全員『美奈子おおお！』

第四十五話

終わりの花見

十年後

美奈子「かんぱーい！」

全員「乾杯〜！」

ゴクゴク

美奈子「あの早苗さんが居なくなった異変から何も起こらなくなりましたよね」

魔理沙「そうだけ。というか逆につまなくなっただぜ」ハア

早苗「え〜？そうですか？私は今の方が平和で良いんですけど」

美奈子「その時からもう十年も経ったんですね。早いなあ」

諏訪子「そう？」

早苗「私は人間だから十年なんて早いですよ」

諏訪子「なんで美奈子は早くなって思ったの？」

美奈子「それは……当時同じくらいの背だったのにもう早苗さんに越され

た……」

早苗「確かに私大きくなったなあ」

全員「……………」

美奈子「うー。霊夢さんか咲夜さんがいたら今、〃そこ!?!?〃 って言ってくれましたよね」

レミリア「うう。咲夜あ……………」

魔理沙「霊夢う……………」

美奈子「霊夢さんは、強い魔竜と戦って弱ったところに、もう一体龍が出てきて…………。もう思い出したくもない記憶です……………」

フラン「特に美奈子はその霊夢の倒れたところを見たんだよね」

早苗「レミリアさんはもうフランさんに背が越されましたね!おまけに言葉とかも」

レミリア「うっ。でも私の方が歳は上よ!」

紫「ふふふ。と言うことは自分がお・ば・さ・ん♡って言うことね♡」

レミリア「紫に言われたくないわ!このおばさん!」

紫「はあ!?!?私がお・ば・さ・ん♡な訳ないじゃないの!?!?何言ってるのオババ」

レミリア「はああ!?!?オババって何よおばはん!」

紫「はあ!?!?」バチバチ

レミリア「はあ!?!?」バチバチ

美奈子「まあまあ」

早苗「ちなみに咲夜さんがいない理由は？」

美奈子「その時早苗さんは近くにいなかったので知らなかったとは思いますが……。病氣、いわゆる、癌でした。掛かって十年程だったそうです」

永琳「それまで死ななかつたのが幸運だったわ」

レミリア「……」

フラン「フラン達にとってはたったちよつとの時間だったけど、楽しかったわ。咲夜……。貴方にこの想い……。届いていますように。どうか安らかに」

やっぱり大人になりましたね。フランさんも。

アリス「魔理沙は人間の魔法使いじゃなくて、本物の魔法使いになったわね。寿命が増えるのよね」

パチエ「これで魔法使いが増えたわね。それに魔理沙は結構力があるから役に立つてくれるわ」

魔理沙「それはそれは！偉大なる魔法使い、パチュリー・ノーレッジ師匠様に言われると嬉しいんだぜ！」

パチエ「この通り。私の弟子、魔理沙になったわ」

早苗「うん？そういえば神奈子様は？」

美奈子「今頃ですか?!？今日の朝早くに出掛けちゃいましたよ」

早苗「ええ!!?どこ行つたんです!!?」

美奈子「確か、現世に行つて、昔いた場所に戻るとか」

早苗「ええ。ガツクシ」

美奈子「ガツクシつて……」

早苗「私も頑張るぞ!」

美奈子「頑張つて下さいね」

こういう日々がずっと続けば良いな……。

第2章 番外編

番外編第一話

一個目

早苗「おにぎりを三角にするのって難しいですよー」

諏訪子「そうなの？」

早苗「だから私はあのクッキーを型にする三角ので作った方が早いと思います！」キ
ラーン

美奈子「(あれ？三角にするのって難しいの?)」

二個目

美奈子「……………」
「かしゃかしゃ

美奈子「……………」
スキマを使った方が早いです！」 シユウン

三個目

早苗「美奈子の尻尾触ってみたいです！触らせて下さい」

美奈子「嫌です」キツパリ

早苗「お願いしますー！一生のお願いです！」

美奈子「……………そんな言うなら…………」サツ

早苗「！やった！もふもふかな！」ガシ

早苗「……………」

神奈子「あれ？早苗寝てるよ？」

諏訪子「ええー！なんでー!?？」

神奈子「ならば…………美奈子の尻尾を触ると早苗は五秒で眠ってしまうー！そういう事だ！」

四個目

早苗「美奈子の帽子から猫耳が出ている………… どうやって出ているんでしょ？という事でー帽子見せてー」

美奈子「えっ？やめて下さいー！ここは私のプライベートゾーンの一つなんですー！」

神奈子「そうなの？」

早苗「神奈子様！信じないで下さいー！神奈様は私の仲間でしょう!?？」

神奈子「うん！早苗は我が子だからね！絶対に敵にはならぬ！」

美奈子「早苗さんは神奈子さんの子供じゃないし言い方変です！」

諏訪子「大丈夫だよ、美奈子」

美奈子「何が大丈夫ですか!?!」

早苗「今の内！」スポッ

美奈子「ぎゃあ!?!」

早苗「穴が空いてる……?」

神奈子「そうなってたんだ……」

五個目

鮭好きの子猫「ねえねえ！聞いて聞いて！」

美奈子「何ですか？」

早苗「何々？」

鮭好きの子猫「スマホのキーボード（字を打つところ）があるでしょ？それでスマホ依存症って目をつぶって全く一緒だったらスマホ依存症なんだってさ！」

神奈子「じゃあやってみ？」

美奈子「どうなるんでしょう？」

鮭好きの子猫「じゃあやってみるね！すまほかせれゆしほれす」

早苗「スマホはあつてる！」

諏訪子「すまほかせれゆしほれす？変だね！」

美奈子「ん？」

早苗「どうしました？」

美奈子「作者はスマホでやっているんじゃないかと、タブレットでやっているんじゃないか？」

全員「あ……」

終わり

鮭好きの子猫「はい！これで番外編の第一話は終わりとなります！」

鮭好きの子猫「こういう風に進んでいくので、宜しくお願ひしますね！」

鮭好きの子猫「ここでは私一人しか喋れないので寂しい……」

鮭好きの子猫「それと、短いと思つた方、いますよね？それは気にしないで下さい☆」

鮭好きの子猫「次回が出るのはいつの事？まあもう出ないかも、つていう事もあるの
で！是非他の小説も見て下さいね！宜しくお願ひします！では、また次回お会いしま

し
よ
う
く
！
」
バ
イ
バ
イ
ー